





毅旬悵春部

題

元日

才一

苦榮

梅

沙雪

柳

小川家之補

孝良友

立春

才二

子日

露

鷺

春草



雞春 欵冬 藤 莖 維子

遊絲 苗代 燕 花 蝶 春月 春冰

暮春 躑躅 蕨 雲萑

永日 椿 梨花 楊 桃 春雨 雁

春

元日

舊 暮やとさ古年一うけくわきまを
壁 去年一ま一春もと綱もろ露くれ

能列り

まこれ海乃けらや神代に朝ひけ 宗碩

もろのらろみらや大宅阿さくすも 同

まにわけとさのふ乃庭に雪のなり 同

あそといひんをきれふやをらに朝露 同

りふゆくるるを春もろ綱くれ 同

わのゆてふ水や雪のさめ老のけら 同



四方に見よ色香のあはけさ乃て家

先あえて年一をまらさやをふ乃を 宗牧

あう縁ゆをむくるや四方のまら露

妻にあけく天の戸わさぬ切すこ水

山のまやま川あう玉のりふ乃て家

天文十一年正月元日倍小聖澤社

うまや河ひと人ひ免さくけり那

こらあくやや方北妻風けさのま露 周桂

けされまふ妻をりくくの雪のけり

雪を妻のまにあうくぬれ柳り切那

雪ハ今朝さのふ乃縁縁雲井りれ

二とせ乃と年一やまれの妻すすこ

と朔ハ雪をかまきとむるくすこ那 昌休

うく衣ののく急や野山北まのま露

元日立春

けくを今日らちても雪をぬ露りか

切をまらり浪ふもややあ乃海

梅りまやりよけりそむる露のま露

少り何人ぬ雪を妻てふあさ切那

元日子目

松やまふと露をくまけの四方北けり

山もけさ雪のなまけりけ妻すすこ

妻を今朝り切ひ来よたりや雪の梅

お越前

きとーやあーのみぢぢぢ朝くひと
春くれおむやふりふやと乃むめ

え目晦目立春

五そふや切をさひさのふけふの春
庭やふけさより梅ははがゆく
年丁二空乃定りあう想り春すす

目蝕

何方りきふ刃てや去目うと曇
りふ立や八まあて乃人け去すす
納えそをあそとやいとん今日乃去
一年丁のふれや西けきふ乃と
りふせりやいく久くさ乃去切す

りふの世に去年丁乃去せり露り那
むとひあをさりそ人何方乃露りふ
海山之所なううもるのあさう
梅りえにならまをくまぬくはと
うくひをやけさあうたむる宿れ梅
梅咲く天の戸いそをむる里切那
亦とに白人年丁のさう花そ乃梅
雪ふそあ先あにつけし瀬戸切那
年越一山路やたさる春切す
りふや世れ人のあう落を花のけ
立切ううとーや所そひーきふの春
年丁あえて後行紙ひさー去切す

宗類

子曰ししてけらや来よきん門乃松
も海や先とりにちきりしやとれ梅
天地はとめさけさのくもさく船
同 同 同

邦一籍乱翌年

うらせをまきふあく乃人れ霧切那
ゆ貴に袖入りわく水おもふ雲くれ
今朝少休や雪をわくう海乃表れ花
けさひと人互や扱えそ八言くすそ
ことさく梅を老木のけしめかふ
うも霞中一舟りけら此うりむく那
積りありそとやいとんはふ乃ゆふ
雲くはとさ孫と立やそ花のあめ
いづくけらう山うらあまそ門のまひ
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

国月

梅や又く連あひ入り見ん乃ち乃雲
夕ふ見らや雲れそれあくむめの雨
八月立春
雲やまこととさあ川まの朝かまそ
同 同 同 同 同

院河亦五年

あうりそ乃代の春と志家都りりれ
同 同

晦月立春

あう海ささ雲や一秋のあさくすそ
あけ人見なりふより此雨さうの風
のさうなるまそあそ乃きふれぬ
同 同 同 同 同

舊冬嫡孫誕生

きふより此妻とわそ為ん小松切那

同

内約不許遷府翌年

くすぬ忍ハ非代とうつ以去目うか

同

古年一此妻ありくぬ家ありこ切那

同

物あると乃やありたまるけよの妻

同

人子孫のひよりあなるやきふ乃を海

同

たこれ戸の林や今日少家妻の阿め

同

めらりあふめくみ色芽世りふ乃妻

同

越来くを打減少るゆり乃と雪りか

同

あつたまを阿くまうた忍や宿乃妻

同

音なきく老もかく世りや春切す

同

海此こみ雪やりふ乃来れたあ

同

力のよとひ切捨人一年の初子裁

同

一和ゆとあや一や分つあそこゆ

同

たえぬる於や山下ありきふ此兩

云仍

妻きぬとりふ色む人なる霞切那

同

きふとり人を雪も妻志うきえ間式

同

妻のらるあたと見えううひと裁

同

年一あえそ又妻まのやうをうせと

同

けらやきふあゝ海の花り一敷此兩

同

手にむをふ水又春志家ありこ切

同

冬る妻の海をう忍世記の外山切那

同

たらわりの幸れ矢も也さありこ切

同

あふふ海のゆくゆくさなる折の月
うけあめ年もみわたりはくも山
三十すべし一才に志家ことく那
元日甲子
わたりみあひ思きふあそ三は初子月
ゆきれ明くむくくのけく乃まの哉
お周防山に
うさ草すえうらわ氷のまへへ我
まのときうてとくまふ子月あふ
元日立春
を家とく三うひとはめをくめくれ
みかるとやと綱わのゆてふまの氷

立春

新撰茗
竹林毛へ

竹林

花のそらとて海とくちやより聖山
くすむ日ハけさ立春のむくりり切那
妻きあとの人も花なるあとしりか
月のをき花のそらとて月あつたくれ
唐室よりくの舎より
わりの水のうくみやきのふ雪乃くけ
又飛二年ハ十二才正月一日は水の
夢抱より
年やけさあけれ井くぶ乃一水松
何をそをまうて春立くやこうか

宗碩
宗旅

同
同
同
同
同
同
同

山や今朝ぬれうちつけれ雲切すそ
行りありやねなり山のこ雲すすみ
阿しよもころり梅の白ひ切那
曇たぐいけか此色にぬ本よりなり
又しくの苑れを海寺より草一本りふ
くまの寺よりこの舎り

太山すそころやみやらの苑乃けり
同

少乃根をゆりをあらえそ海霧切那
同

二月二日立春入り
同

朔くすそきれふ立ちやあそ乃雲
同

二日月と

一和あけく月のるれ雪ありたり
同

雪うけよと年ととあそそふ根切那
同

そりれ又にわさそそ知やゆふの春
岸柏

苑をやはらかり初版をるあゆり
同

みらたりしそころ一日に雪あり乃雲
同

片ふと雪ありちさりや世にれを海霧
同

分ありやゆきれ雲井踏と網の雲
同

独吟の連ありゆりふ
同

乃しあまや雪に曇ころ太山くれ
同

色よりそそあれをえやハ老の雲
同

老をそふわつてふ年と知ハ哉
同

正月立春

あさし人よりそそ海やこり雲霧
周桂

先越しし中と阿さう海の春月哉 昌叱

苦菜

園わりのふつむ野を雪あふく一掌の松 葱裁

ほろもやせありありそ乃く袖若菜 宗碩

川のほとりも菜をきふ城つむせ水 同

庭とけさうやこの野人の苦菜久肌 同

枯しし野やぬと先住むるつわのふ 同

きふや種若菜此小まろくくまうか 同

幸山乃雪入りたまる思わうか切那 同

松のつむじ中よりそを庭ぬわうか水 同

有りな流と小松ひまわそのふ二葉哉 同

花切つと阿さなるよの海く若あり那 同

松をきふい飯一程のわうな切那 同

ゆ貴の根入りかろく河此小芥久肌 同

白く人の袖にみとる此わうあうか 周桂

七種をいさますさひをつあさそ切那 同

つむ袖やまのらん野人の初わうか 昌休

花なうそ雪もありはめそつまう菜 同

予重にうそつむ若此はのあふ久肌 同

おきうそつまん目とまのわうか裁 同

七種をくふまう野のこれ野切那 同

妻なうくけふとあとしれまうか裁 同

摘初し年しれそ貴代くくあつ菜 同

きのふ見ぬ雪間うひりり若ふり那 同
 あえくふふ年ハ古繁れりなかな 同
 つまてひけ水草もかぬ深掘りれ 同
 所そりまきくうさ草切り於祿せり哉 同
 水ゆるぬくこみきくか祿せり哉 同
 昌比別家もて 同
 祿を乃とせつじへ身中ハ此初若か 同
 津まあつ以古繁りやあそ河草 同
 山より乃雪と流るる家わり業切那 同
 阿さ津まう於ほひ少りさ祿せり哉 同
 七持まうすそふ乃人のたもとろか 同
 心あてふつぬたも雪乃くろりりか 同
 種しあまハつむ徳も於わり業切 同
 どく禮あし神小もあま家よりみ哉 同
 翁うひつじそまけなきわり業切か 同
 衆くみ津もてもあま家よりかか 同
 つむ神も大せりうさぬり人さうか 同
 初とく此門は流るる若な切那 同
 よきてつめ杖の七持もゆゑ乃志こ 同
 一本此わりなやせこの子と此たの 同
 王うか所む初を志あ所をすまきか 同
 野とらあえ雪を初と所ぬああ久れ 同
 つむ人れあ流や氷乃少りぬせり 同
 雪につめい葉さ人さ白も祿せり哉 同

春と為ん種つこころをわく此切那 同
 根芥此びあとい言まのりりこく如 同
 入うそにこやこやきふをわのみ河 同
 庭入り所人雪と見きふ此孫せり哉 昌叱
 隙とゆふゆえやつじ神をわわうか 同
 六月 同
 乃ふけじや末葉をあを此涼孫せり 同
 雪入りけむ苦葉のそを所奪うこそ 玄仍

子目

独吟

びりりふ松乃思りんをれ乃こころ 宗後

あのみあひぬ年も初子此一よ切那 宗物
 交本やり子目にゆふは小まろくか 同
 うくひをこま川や初子此多あを孫 同
 折ちこみ扱や孫の目此こまろくを 紹巴
 風と手に引切くろ乃く子目うか 同
 交古人ひ如連り乃く孫の目切那 同
 ひま扱人よ年も初孫此聖人の松 同
 野くうそとあを孫乃松の子目く此 同
 天電れさひうんとま川孫此目切那 同
 手に乃こころ心もみてろぬの目うか 同
 年すくろ乃子目あろひなをよ本哉 同
 ま川雪のき庭のあを孫の孫此目哉 同

ひよて先松入りて子目ク部
わの草一之孫よあよひく部小松式
きふひをやあよのみと皇れ初孫目
あとい葉をほさせぬ宿の子目ク部
うくひすも乃人にいさふ物孫式
まよまけむりて子目入一筆の松
白く人乃袖をみと皇れ孫の目ク部
松をぬ木草一をきふて子目切部
わりつめやらき孫の目の末乃松
ひよ乃と世後又もつねの目
子目ほるた子や老木れ乃人乃ま川
わらふ津をし雪間とあ孫れ月賦
老く若も子目のうてやわ孫れ月賦
孫にふれま川やこや乃若くやわ
川や人よわりのき根せりあ若人の松
ひよ海とて松葉を志孫を根せり式
子目一して年や古木れ若人乃松
子目一して川あとしりて乃ま川
孫乃ひひらま川よあひ生れ若葉式
若くま川の予とせ乃ま川孫切部

七月子目

つむせりけく小根合のこま川りか
今日ハ又松乃をくこめれ子目切部

梅

同 同

竹林

花と淡しうのひり切るむ新此梅

心敬

徳阿

のく何うも神そややれ木梅乃花

同

おりふあひく梅咲ふはのり香か式

香頌

梅の香にふくはあそは阿くく哉

同

本と此香や毒のあをひる梅のそれ

賢盛

うけうつ家かう河る此梅の花

宗初

いと清をぬすかへよもきう宿此梅

同

水尻まをひ免ちう達乃あうめくれ

同

吹ぬ梅もく衆あるひめ此す初此哉

同

新撰菫 世をけうと梅り香をぬ風ひなり

梅らりて木陰入りつるう白ひくれ

梅りふ風まらう家梅乃ありひくれ

於まかへ袖に志あ乃く甘あれはか

ひめう起くまう風よりふ文井一哉

花そ甘あうらひを日海く本との形

八園 西毛

行人り立校やうすむや電此ひめ

梅り香乃切をまど川家あくく哉

ひめまくに柳一哉思まはく衆のほ

うせ乃梅を甘あれうき本家白ひれ

梅りく白ひそく行るあさくすそ

袖りしあけ雪の梅りくそそ家の風

梅りくそとふ人あまやうけれあは

梅はわう花りくくはく老本くれ

梅の花たの思きぬなきふわのう那
一主ふもこめ久家梅比まがひ久那
あひぬあひぬ又葉の松に八重此梅
梅う海く竹の葉きふ家末聖うか
花あとにあもるん梅比まがひの那
ゆく里うみ布ふと秋風やとのひ免
うくひもみかふ風と雁宿此ひめ
いつた冬ひ免まがひのうらふ露うれ
ゆめてうく色さる人香所人ひあ乃花
あうう里う又香やあうと梅の花
梅にまがひの柿みんてて風も那

まがひの葉よ冬あよさうんひ免の花

宗祇

先あくいありともひあやと乃花
梅まぐり山にちううそれのけう
雪に甘あ屋まを河やなき白ひうか
梅う香とあういあに志あ朝あ
梅あくれうひを吹さけ朝あうし
梅う香う天此志う風を家あまや
梅さけい世いみかけうの色香切那
梅所けをまがひぬ本と乃う幾りか
あくに梅花とあううひありひうか
ひ免さけを香のうらそふ野山切那
白う人乃梅入り色あれまがひうか
梅のそれ一本入りなうふ色若切那

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

ひめれ花色入りとうきぬらひりか
同

梅りくよりのふかふか花を
同

梅り喜よふそ子いふをあつへ
同

ひめをきくすかひ残花のら志不
同

切すとい人甘あさく山にみか
同

写方みふけひめゆくや梅の香の風
同

梅りくよそふ志あゆふあー哉
同

くすむあそよその歳よひ免れ
同

妻かつて冬のひ免ゆくみやま切那
同

庭宝ありそゆい今へ
同

白へ甘あふあそよその妻乃う
同

暇ふかぬ妻目りりかへ寄れ梅
同

梅り若にむる望をよむふ妻目り
同

梅りくもあわとやうての夕月
同

甘あり香に冬ゆりそすめ夕月
同

月に梅着あそといそんうての
同

ややれ梅りひひを写方乃かゆ
同

月かへり花志ふ人さまそやとの梅
同

甘あの花志ふいと残花のらひり
同

梅りくよ志家もあやい交り初ひ
同

く散りてありひとらう世梅れ花
同

ひひなりれ花の香そぬ白ひ切那
同

同ふひめらうぬ花とふりかひり
同

梅り香にと人をややなきく幾りか
ひ免の産くやと春風のぬけひの那
梅の川をみやりててく幾りか
そとにたくみ物ひの切をむ梅乃花
あく乃さうこれあ梅乃風に梅の花
同 同 同 同 同 同 同 同

石清水社の法樂り

神あとり我人とみかる者れひめ
たどるなとそておや白ふひ免れ花
お梅ひめにわくくくくく乃白ひ式
ひ免まくみけさうち地人よ高れ香
梅入り白ひまのにおさまる幾りか
梅ハハか神のあはれこれ聖の那
くふハ先梅やそれそれあり乃う
くすむ江入り甘あ梅く遠れ色うか
二葉ふりまかへまおのさひめの花
梅りくやハ時ありき嘆をひめれ香
甘ありくよ種やまぬ世れ法乃それ
量乃うせうし雨まき各号の連ふよ
なふうかくらうの白ひし梅れ電
梅まくみだ連てくすめあ梅し茶
梅りくにわをゆき梅く冬山路うか
うけや雪ひ免あく山の梅さあ
まて志を梅らたのか梅掌し雪
乃こせけう世の梅りくにその雪
同 同 同 同 同 同 同 同

肖拍

くまにせりふすと世の初え宿此ひ免 同

美存法師すくめ坊舎り 同

うくひすを梅の香おむ羽うせ哉 同

まかへひあひざらふさきさの巻の風 同

をふまかへおりおにふら梅此花 同

夜原正盛亭乃舎り 同

花よりうふうてを梅の香ちしふ心 同

朝うすも世あり香あま既後神うか 同

ゆらしし色又咲ともたらし宿の梅 同

梅列古賞初天ゆま千句 同

なれしお神はむし 同

神といふく毒め色もかへひ免此花 同

互隣もて和漢の連翠し 同

梅う名に入江うとめ系小あひうか 同

園 梅此花二本入りやふりう香切那 同

梅よくに控種と阿やあ朝のまを 同

壁 一本入りゆくやこれ花四方のうれ 同

梅う記とわし色さひくやあさかふ 同

色音やハか入りうくひをひ免此花 同

梅のくさうふうふややれ立控う那 同

陣月く 同

さげハか梅うくふりや字方乃巻 同

花よお建てひあうくや世風の松 同

梅のえのたふりに白へ去年此雪 同
 行りゆりゆりや梅りく別切すこ 同
 下草下に月かへ梅さくまわれば 同
 春ととめくけりや先ありゆき乃梅 同
 そりに梅よりふりゆりこ夕月夜 同
 月かへさけありてたの雲ひ免の花 同
 りやまに白へかへよの宿れば免 同
 妻志くぬありてつけよ梅の花 同
 笛竹のみうたあふびぬれ色きりか 同
 見けくけり人やを志ありやと此梅 同
 梅のりこうへししりき孫乃るひは 同
 ひはふもさみありふひめありく丁のれ 同
 梅り若よむるもやたれらんもるの水 同
 雪そちりるをハ梅のく乃あさくりり 同
 梅りくハありてふ種此少りひりり 同
 よりふてふ花のちきりやひめの花 同
 小建し世とさくやげ花天津うた 同
 梅りくもとめ何人思神のわく様式 宗物
 くれな井此玉ちり梅此つふと哉 同
 年ふそふ立校かうり一園乃ひ免 同
 梅乃何か子代とう流しれまわりか 同
 雪や甘あらしりひりかふを家の風 同
 月そ甘あき残雪ありぬへ花を水 同
 梅のよに少のきふりあ白ひり那 同

月のりらにゆくや雲井一乃梅の花
 雪とよふさくや春若乃ひ兒れ
 梅りく乃くほそみたり小苑のなり
 ひ兒れえのら連ふ井の禮朝附目
 代くとくまきそふ梅れ若校り
 知やうふき布ふりらのむめれけか
 梅りく乃四方のけあひや露ひらん
 久くこの花やひめり若あまつ久梅
 梅り香ハ校と序と孫ぬおとりの
 梅り香とあをひく四字此のり那
 美りくよらえにほなるむめれ花
 甘あ乃るれあひの後れならえりか
 香をくきそゆくとも所をか梅れ花
 梅り香と白ひみさひく阿さ戸う那
 香り香ハおくある山れ阿さり花
 こけり甘あぬより小みと里かふ
 三山踏とあ連家やふかひひめの花
 色もやハ香こめに咲く甘あれんか
 梅りく乃花とを見序り羽戸切那
 梅りくを阿さり此花のくをぬ久れ
 坐そあといま一之梅ハ阿く世切那
 父子成まるとまけ人進善なり
 とくめとさて梅りくさえし授りか
 南都より不重
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

とめきけくもと所若深し一宿此梅
 心め此花者なううう所若少て日式
 つか心若るをら進ふ井なるぬ梅りか
 神れり小五投やき布ふやとのひめ
 梅の花をさくくより小本草一うか
 ひ免りくハ人日此をきぬ白ひう那
 うくひをや登とくはとも此梅の花
 けう少のふわり繁を甘あハ苗うか
 梅あくハあまらんあき此子種切那
 东风ふげと思りぬ梅のまがひうれ
 来と枝をみんころつこれやそ乃く梅
 梅りくを歩く袂の梅乃うりくハ那
 神の香やみりくう人れやとのひめ
 位り色よ木陰を甘あれくかのや空
 あそらりし梅をさ枝さそ枯本式
 甘あまくを壺さそちうあやありか
 梅りくハ所をり進さそふ所くハ式
 ひ免れ花草一本の梅うふ又りな
 梅乃をれ字方に投りをうかひう那
 いくさとれ白ひくを梅くひめ此花
 かしひぬも梅りえ所ふさきり葉が枝
 うそあうハ年一と古記の宿乃ひめ
 あそるハにわうえハたり一宿の梅
 つう人あく梅りくと枝し本と此風

同 同

梅うゝに子とせ残らき家やさり
お家長業厥舊徳
梅あつくを若木へ似うらむ
霞

同
同
同
同

霞

切りしおろし袖うむる此春切す
種とほさる川をうらむ二木うれ

心敬
同

竹林

雲のまをゆさうおおはへ天津う
阿さうすそめにせう春の本末うか
意をとりうすび一さあます急切那
あさうとみ色はく阿あれ本を急水

徳所
智益
考須
賢盛

菖

中しそり此霞へしとそふ目鏡りか

同

風とゆへるをさつる松の切をさ切那

同

ひをしおろし袖うむる此春切す

同

世ハ春とく次めえ移りふ花のな

同

えおハまうあさ目しろ山此霞う那

同

けうさびし雲やあまき家霞かふ

同

常一盤本此志くれハと那乃霧う那

同

おくしう冬見ゆる露の外山切那

同

少一此根ハあまらるる行る霞う那

同

阿さ切をさうすそふ沖乃小崎切那

同

と波や海もけささめにせう霧う那

家後

わのまき家やうむりの雲うすそ

同

うりそくとをハる家霞う那の那

同

出るやも思ふぬや守方のあき露
そめえい川山をう原と此朝みと望
うけや松山をかきと乃うをとやり
かきみれやまや守方の雲あさうとみ
うけやあ山のかきとのうけみと望
山さも乃かすみやまそと浅うやり
切すもさ人核うあ山のゆふへかあ
山りとりまきなりむううのありあ
朝うすみ山さきうの河ううれ
扱うそ家やまのうの川に朝うれ
思ひもあうぬと浅山うくへあさ露
と浅山と扱う人えうすみきかきと就
色かえ家本あいの切をこの千種うれ

りろくろ家本末やすうと朝かきと
と浅冬とてゆけをうとまぬ春聖式
空をりあうてうすみ乃本末う那
難うそ乃もるあこすそ朝ううと

箕面山ううと

河う音をこまえり霞むた山うか
あえりあ川うきさしあさ露
水りまう山うこかく家かきと切那

新撰免致政業此うり承て後庭宝

朝うれとあ山うやめく思はくそ山
同

若柳此うらうらと浅し河切す
切はぬ糸やうくまにみの江乃浦此松 同

栞列中一橋の聖廟の子白連舞
明日と見えん松トリ松切とれり 同

とをしぬ浅きや波をそり切を
浪入り松の海一志不れりす之切那 同

子雄尾濠坊より

ころもむらうの夜之白し流の糸 同

切すといふ人引山少のふま末り 同

唐室よりこれ今入り

くす之世より浅山乃そや宿乃そ 同

すのあなる園に趣し

カヤこゆり都とよそれま切す 同

園

と浅山やおり人ハ行をゆさくす 同

亦六人舞一仏法樂發白雨重 同

霞よりけらやりのくわ乃う 同

源頼朝任法樂子白連衣に霞

四方の海此曇えうのふや朝かま 同

浅みとる星立ゆさねなより春久 同

菅原元親尊會より

わけあのとそめてらり知の霧り 同

わけ時の浅くすにゆり浅く 同

きあまぬと見えぬありをやと 同

兼裁
家長

肖狛

切さるるなきあての千里の春のささ

冊後ふと一時

けりたぐや空たえとわさの霞りか

後名橋のりと

ととと霞をる海なふかきむら

うりに海り

美葉つむしきさうとと句の禮式

ゆりまみんりふや河やよくの春霞

と秋にらる野まわをみとやあさ霧

山のそと忍れをあそあ連ねり

ゆりまみんり八重きりや海をうた

深くうぬふ山乃筆や河さ切す

中りや五重のそとふ乃の羽り

たらしそとくやまや八まのれを秋霧

と霞のりゆみきるや霧をるあう

あささすりさ南と河あれ立ふあ羽

わうえきり老をれまわれ切す

映とくう山のそとむむ河さ

あさの葉もえやハ繪り

まともを山をうけまれを井

作整

少ふあとのちやあけ朝

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

山ゆくハあそ多よる花の羽かまを
うりさひき春やと山乃あそかまを
かまをとり雲井入りまらふ春の満
いせあそふや花田れうを切まを
ゆきやちや海乃を流き霧切那
那にとちり流まぬ雲井り
雪入り雨え露にあひけあそあ
ひくくゆく河津くくあすを切那
独吟予白
ぶらましく海山乃美こ雲れり次み哉
雲山もみやごそを海のあさくすこ
志乃くめれり海のあそあそまを
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

遊善一回り

雲やあそぬきふやうぬ世れり露
けり雲の此山りりるる色切まを
八雲ゆもりふらく乃人のりすみ哉
互初し神代移りゆるかまをりれ
くくあそをる海やうき霧くあそ霧
あそあそにさのふはうにき霧りか
晴風うぬそくをみとるに切すこ
あさくすをひくくふまやまの松
山ひあれちりぬきぬきぬき霧
作ゆををにきえても切まをむ夕切那
あそをらふく霧れそれまをくあそ霧
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

家類

山ゆく八重りり星あり色春くは	同
朝日あめりけ所を奉や八重切す	同
そらに句ふ家まろやと波や海潮家	綴巴
妻かまをりあけけのやすの影	同
うすふ山流うは見えやく家岩乃松	同
朝戸あけれ山とまうるまのかまみ哉	同
とをさ江乃流やせうの孫れ流う次	同
大そられりうや山のゆふあまを	同
けりれりろあそりき布ふ聖山かふ	同
峯ふたふ依ま川も龍乃内野うれ	同
と波し後の霧りまきう山ありし	同
あさかへりうすにたり霧霧山哉	同
村山まひと入にうひるくはとくお	同
たちぢ人ハ至鴻志川ひりすみお那	同
真聖すく	同
江乃う急をふなまや朝初を	同
羽切すきしをすぬ海乃ひくさ式	同
おと院流千句	同
あさかまをみあうまやそく天河	同
おと水伊勢	同
仲つあひをりりすすみ乃満るう那	同
六条道場少	同
忘ふうぬやきふ早とそりぬ霧うれ	同
風や群る星初まをにうの娘玉津崎	同

山あえて川	風あひを切すこゝか	同
阿さくす之山	や大江のぬりも切那	同
江此ふをそよに	ふ川まゐる露くれ	同
うをくられう	次この下やを流乃る	同
よし雲や切を	此あまのつかく繩	同
流のをとや	うはみくこゆる末の松	同
わうれうう	やま川ハ雲井乃露うか	同
大うをを水乃	をそえやあさうすこ	同
志かやむく	あさうしなるみの瀬霧	同
うをむ聖や	ま川に小松乃末葉うか	同
一本うり	きもつやむくま川朝う次み	同
色ぬう	流る流とを松れうとそり	同
朝あ	くきこのふいうをき朝うは	同
り	くみん誰に志あ乃く朝あま	同
春か	まを阿方ふまううこの内聖う那	同
思ら	う内うり露れうあ志本す志哉	同
物	あうり松をうと流しと云うすこ	同
ひ	さうこの乃をうりみらうう露切那	同
庭	ひろきうきふと阿方此うすこ哉	同
大	あうきさをうて一むう乃う次み哉	同
阿	さみやを望まう又先聖う露切那	同
阿	う玉此年うにかを流ぬうすこ哉	同
初	當うりならもうらぬう次み哉	同
ま	うれ又とそあ流らうく切をこり那	同

まつたけさあらしのまじりぬき切那
 さひきそりんゆく急刃のきり春霧
 たまひのりのひりぬき人の露のれ
 雲をのやぬいひうこれおすきりか
 うとあし乃山やと波しぬきうすき
 露ををあらしのれをちれおやま切那
 深みらるうととつとらるるまの
 霧りやもるのふかとの見残さるし
 酒あらし
 同 同 同 同 同 同 同 同 同

くじ神の切まをまふきぬあらし式
 揉ひる根あらしうあらし切すき
 同 同

おろ馬

山をうけまをたのまふりあらしのれ式

一周忌遊善

夕よとてまう人ぬきをまは衣うか
 定家まうけの浦色紙開
 毛しや草すくぬたえぬかまをて式
 春のりろにことくわけゆく露のれ
 けりうぬやまけ木しりまはま霧
 夏けなまん乃あるさてそま切すき
 明りのとけりりりきぬり深み裁
 乃うおや天つあふ目れくまうすき
 それのさう切まをぬ浪のぬきさ式
 濡れととい霧うし白ふ木れ間うか
 同 同 同 同 同 同 同 同 同

あく風を切まき乃烟のつかて切那
同

能北源氏竟宴入り
同

切すまもや水くさ乃と流るまや海
同

妻ののろ聖山よあま家くすまう那
同

さえ切くつり来をあまおり
心前

和漢

春くすま何乃のろなきゆるるれ
玄仍

大そろもた成あまをあるうとみ
同

沼津承函繪作

山くまとまきくまわけうろくすま
同

石周防

同

新雪

水あけしきえてゆく月江雪の雪
心敬

あろとまて花とそけなる雪の
同

妻のくまきえて雪あるあ
考須

と成山れまゆまの成き雪るれ
賢盛

浅みとま電所人を海乃ゆ貴男か
行助

雪よりまうつじやう次み山り
同

妻山家のゆ貴さ人かまむ言根り
同

雪にあけくらすまらるる言根哉
同

山れ繁入りう次むや若妹庭れゆ
同

新撰 菟

竹林

竹

ちりり霞見よ庭ハ露けさるるのゆき

松の葉ハくはくちやおもさる雪もなり

乃とまほハ色ゆ人ふすし一云乃雪

けささまこのゆきをを雪の外山切那

ふすむへまりのとやよそれ岩の雪

朔のまを雪入りさびけき山もう那

峯ハれ雪けさハゆきこのぬりて丸

雪を分想志さるるきゆきゆき

在れゆきよまきと去年とや岩松

玉ありゆきゆきのまきと去年とや岩松

その越くゆきふあさ雪も切すて式

ゆやちふやうふゆきゆきのゆき

山みきい海よりさむい去年とや雪

今朔散になりひてきえふあその雪

きくをわし春とあすめ峯乃雪

まきそそ雪をを見ぬ乃うはゆき

ゆきとんやゆきさうゆきゆき

ふすびらけさやハきえん峯の雪

ひまも雪ふ露やまきと去年とや雪

雪のまそ雪れぬりてれゆきゆき

雪なうて見ぬゆきゆきゆき

春をえて木雪ゆの雪れ小まゆか

おくやうすまきゆゆゆみゆゆゆ

朝ふく山乃葉をを一云れゆゆ

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

山乃美に加むむやなうり庭乃ゆき
と浅山登中一くくどむ庭のゆき
峯小ゆきり次むや志さふあは乃松
うすくふ花切をを雪れすそ雪哉
同 同 同 同

水無瀬庭深窟乃清樂一

ゆ貴なうう山本う次むゆふるう那
雪りまきとけうとうのる思水りな
ゆ貴うすむみ孫や川上表の三の
まさてアんのむやをととさおも乃雪
りうふせん花といそけを思孫の雪
きえ庭うてはか乃あまそ峯のゆき
あくまたの本末一乃と深雪乃花
同 同 同 同 同 同 同

和漢聯句發句

うとと浅雪うすむじや林ゆきこのらま
ありそあーりかとふ掛籠雪の雪
そらにゆ起のこらまらう世春の雪
山や暮うすまぬうこのゆ貴を水
ゆきや春あまき家そら浅みと雪
まうけくあ庭やうううき峯れゆき
そらにきえーあを雪うが家山踏水
園 冬あうハミゆきとけり山路う肌
きえぬるうい庭あう雪とそ乃雪
雪がううと浅ゆの峯や羽うすそ
そらよの色ハ雪まの庭れ小まら切那
同 家長 同 同 同 同 同 同 同 同

草木よりいふまじくしるむと綱此雪 宗碩

松や雲ゆきあうり乃く阿さみ中り 同

春う撥入りぬさねや汀之縁此ゆき 同

けり此雪ふりり江乃みなさく此 同

庭や雲はゆき思ふとのゆき色なり 同

雪はゆきわらうをゆきたて柳かき 同

ゆきや雲は川くふきり此下集り分 同

春なうらきふふりさねやあそ乃雪 同

雪の川こそととせぬ春初ま 同

それ思はくゆくととも雪は越路う那 同

松や雲は八ゆきよと山乃らよ乃雲 同

雪の川こそととせぬ春初ま 同

ゆきをくまきそ本はゆき吹とゆき風 同

ゆきをくまきそ本はゆき吹とゆき風 同

ゆきをくまきそ本はゆき吹とゆき風 同

ゆきをくまきそ本はゆき吹とゆき風 同

ゆきをくまきそ本はゆき吹とゆき風 同

ゆきをくまきそ本はゆき吹とゆき風 同

ゆきをくまきそ本はゆき吹とゆき風 同

ゆきをくまきそ本はゆき吹とゆき風 同

ゆきをくまきそ本はゆき吹とゆき風 同

ゆきをくまきそ本はゆき吹とゆき風 同

花と見とまろとやきゆり三孫乃雪

同

あつらふみほりぬや表けさの雪

周桂

付きあらんやとやすめ家峯乃雪

同

石見のやろろあるゆさのたの孫哉

同

うとめ飯やめられと浅山み孫の雪

同

五海りうすえやまえんけさ乃ゆさ

同

まのたのふ大河水やあそのゆさ

同

玉かこれ阿さけあま孫し松れゆさ

同

春のゆき水につりらぬや梅もなり

昌休

ゆさゆさら家や春とやうもろり

同

八坂より水

同

ありそふやきこなんとこれ松の雪

同

雪人や雪きえりまひとつみと雪哉

同

けくを松ゆさあそ本と花のゆさ

同

水草し雪梅し根河をを松聖久れ

同

山はけさ雲にう次まぬゆさのなり

宗頼

春さむみゆさまをさる此木来り那

同

河の音は雪根にうをしし雲乃ゆさ

同

まらおしむえ落やうすむ峯れゆさ

同

世に入息瀧つとろるやろろのゆさ

同

朝おしく松れ繁あをし春乃ゆさ

同

らりらるものろろを雪はさかそが

同

竹乃葉とくむ手に乃こ家雪を解

同

わけのあま雪江ひままゆ山うら

同

誰と志祝山うらむ雪乃あきかま

同

そらや雪ねまきくすこ北木末久

紙巴

山を雪みとるにわく家切をま切那

同

峯下にけふ家松もゆふ間北原葉

同

春少家やおり人を去れそらみゆ

同

や少ふぬむらむまち久家雪る

同 紙

そに少くぬ雪や切すこ乃山あ

同

上るまさきゆまの庭やあそ乃ゆ

同

妻くさけう人をつまき好し登人の

同

勝のう人も少くふやま北の雪

同

雪乃ゆきよれきあえたりたるの

同

忍るうりにまの末たり雪北松

同 紙

あふ河乃雪ま

同

梅やゆき香も色色抄今朔乃ゆ

同

雲を雪乃あうりまのそゆり

同

けろの色げまぬゆたの雪の孫

同

竹乃葉の志川くふぬうそ乃雪

同

妻の目や涙お正ゆたの志こそみ

同

くすむ月を忍るく雪うのし峯乃

同

月代やのふ家かまそ乃まのゆ

同

花とまのひととや孫とむけらぬゆゑ
同

あゝ雪のうまやとやりたる家の雪
同

まらぬゆけきえんこらぬ雪れ峯
同

善の三山ふこ家や少くきゆきの山
同

けさ乃ぬにきえりやうすむ奉乃雪
同

庭草下れ下よりりそくゆきぬりぬ
同

わら草下れつまこあ見えぬ雪男哉
同

うすあなる道たやりあり雪男かふ
同

あむ徳ハ身とややううの雪ぬりぬ
昌叱

松入り小松生すふひりゆきまぢ
同

河うとえぬもとやめく家峯乃雪
同

雪とふむ山踏ハこれの志とりうか
同註

打成乃と致雪もむ人なる小野かふ
玄仍

石駭河
同

少乃報のうけももるや春乃雪
同

鶯

新撰 卷

うくひすや竹乃うて句の世々の友
同

うくむねやおろてふ教れあやとる
家孫

常惠金せし今又鶯
同

ひひりんせ花のうくひと四方乃善
肖指

家碩法原と故人と一會り
同

あひまあひぬとふと雪をれ乃也と

同

うくひは乃そく飛もおもふ妻は雪

宗碩

うくむ雪のそくちりゆく春や雪の松

同

うくひすは啼し一うとやあよれ雪

同

うくひは夜や宿し一うとく若の春

同

雪はあうし一秋少のきやともなり

宗牧

うくひもやひとつてなう思宿乃妻

同

うくひはれそは言のざらふ朝日哉

同

うくむ雪のあそれそとつむあ菜は

同

うくひはも花やあよきれあひ切那

同

うくむすは花のあそふあさい哉

周桂

伏見方句雪地者なり

雪やよふをぬし一みの雪人此けり

同

うくひは乃那う人ぬ竹は花を彫し

同

うくむ雪をりくらの雪りの初雪は

同

うくひもやあゆぬ末末乃花のそけ

宗類

雪もあしうくひは来なく園れうけ

同

うくむ雪をともも雪のそそりか

同

うくひは乃そそり雪乃木のめ哉

同

うくひす乃明園たともる木を急るか

紹巴

あけ初めや雪とみちのあつち切那

同

うくひは雪をよこそあけ乃初雪哉

同

百子とりきくはりの何く考きりか
うらむととまは戸は乃らあふれ
うをひを減きけをまふびき朝戸哉
朝いせんうく衣はあつぬ宿もく船
うくひは此耳に志さくふこやう哉
うをむすのり落し急入り鳴嘘切那
うくひは此う急や雲井乃朝附日
鳥をいぬ乃あうあるみさるる切那

同 昌記 同 同 同 同

柳

新撰菟 うくひすれ夢あまううくを柳うか

竹林ニ入

うかきう柳入りり人志う小柳うか
情ゆひまふ侍のうけめくむ柳うか
うけ持うを春目とくりの原か木か
風うふもをさうてふはうやなき哉
ゆくむうそ河川はうあ紙む柳切那
阿さみとる星あう落きゆく柳うか
わの髪はあううハ巾箱のやあ紙か
き柳入り映想や阿ううを乃う柳
やなきよる星あきやなうひう春の風
あ紙扇まうと思まうよやか春此風
あをやまうめにくぬ風のまうと哉

同 同 同 家紙 同 同 同 同 同

秋露を忘るぬりせしくやれお
 うくひきの羽風をわくふ柳切那
 春風よりきくやさうりの玉座
 道とこのあき露をぬやなきり那
 の波やきふくたわりの世暮の風
 阿さ露とやあきうえさ乃色著うあ
 ひ免りる残とさていぼゆの柳切那
 つゆ切く秋玉のをやれおあきりな
 めのせてと花をぬもぬやあ記式
 春の姿とあそととりよき柳入
 水ぬるのやなきりうけく河登り
 とぬとあきけりうけ少む柳式
 いとあそふそくをみとる記柳式
 あき川北うふぬやあき木末乃あ
 山くすくやあ記木あうさ河へりあ
 雲草丁にやなき木ぬりさ川へ切那
 門田ゆく水り木深をやなきり
 うき田ゆり山水ぬりやあ記うけ
 うきしとれ思わさしとささ柳式
 いをなぬ月を形そ江乃やれお
 ちうりそ乃木末ともなきやあ記式
 うけきうのし大河やあき奉り松

同 同

源訪私法樂入

あはれやまや春はま井乃手ひけ草

同

云とるそ玉れ波ゆきやあふく如

同

あはれやまや年下に正木れうつう哉

同

たえましくあまやとままき古やあふ

同

霧のけく切すそ入りあひく柳う那

肖拍

風とよそまはゆあきむすふ柳あふ

同

露入りくあまやう波ゆきまあ柳うあ

同

園 一葉けく又まきしりあやあきあ那

急載

あふまのまきまおそふあああああ

同

あめまふああ右木あうさやあ木あ

宗長

あはれやまやあああああああああ

同

あはれやまやあああああああああ

宗願

あはれやまやあああああああああ

同

あはれやまやあああああああああ

同

あはれやまやあああああああああ

同

あはれやまやあああああああああ

同

あはれやまやあああああああああ

同

あはれやまやあああああああああ

同

あはれやまやあああああああああ

宗物

あはれやまやあああああああああ

同

あはれやまやあああああああああ

同

春風乃中入り生うるや水ぶりが	すたとをさる致と引ての柳か那	ちる雲入り水けり厚か木あくら成	白いとのも人なるたきれやあ記哉	梅や水ぶいとともや春のあふりあ	うけこやわかしをこふ振ゆを柳久肥	両中一のゆいとをゆくやなきかふ	こぞ乃をれつて人れ風のやあ記哉	あまつあふ目くけをゆを乃柳一成	ぬくやいとををの流るるなる玉柳	快物たぬはひきさる柳か記れや柳花	来家けつればあひよとそ致柳久肥	いくむらのうきそや雪のひあ柳	あそや記れ露やつまやしし春水水	いくいとに漂う人以雪れや水ぶれ哉	うらうきやひんを生うるや水ぶれ哉	青やあみのあけふれ見る連柄くすそ	そられ色も柳やこれぬらう乃何あ	あけさゆををあてふ風乃やあ記成
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
								周桂					昌林					

そらや雨降ゆとも月んと思ふか不哉 同

後也真し 同

あさく散いこふまてほゆ此柳りれ 同

阿さみとる星そらやより来ぬいせ柳 同

一本れわりのまてゆく枝いと屋あは 同

阿さ目くけえきさるや木れめゆ柳 同

うせハ露もきくあはれや朝の朝戸式 同

青柳りやまれけそふ家玉うらう 同

そら風うはまれ此上乃うやれ木 宗類

く散此のらもさす雪切く枝柳り那 同

そら散をまきさうさいとこの柳りれ 同

くらりのまいとや柳れまゆあまら 同

しりあのかおるまのり家やあは式 同

いせたえぬ種やあとはのたま柳り 同

さうそを散ゆらうく風乃やうきうか 同

う散あまらうさおさうのかは川柳 同

あひく世渡つふ家風のやうき哉 同

あひわ江あ山あめくまやあはりか 同

ゆくまの風乃ゆくまそややれ木 同

う散やましくらうきあ乃少柳 同

露やけさまゆのかゆり此玉やれ木 同

あはれや散や散らす浪のそかうら 同

ゆくとくとや有きや富里を於此風
朔あしく風北よりそふや有き切那
ありみとら里地人の柳より投のあり
あけまさき藤やあはのいもと春乃風
門しくまき場のふやあはの末末の柳
陰ありしと徳所人や有て古やなま
まらまらしと投をありのや有て裁
ゆく神にゆく家やあはの志とえ式
自らりうひと末葉あそりや有て裁
ありととあ柳とを投のとき投の柳
一平のやれ木も同をらまきか那
春き取とめに見るにら乃や有て裁
しととととととととととととととと

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

一ととととととととととととととと
青柳これとつとつとつとつとつとつとつ
さひまうひととととととととととととととと
とととととととととととととととととととと
露とととととととととととととととととととと
青柳これとつとつとつとつとつとつとつとつと
のけ水と月とけけととととととととととととととと
あは柳や色者これととととととととととととととと
浅々ととととととととととととととととととととと
松乃葉これとととととととととととととととととととと
けふめはいり乃とととととととととととととととととととと

昌此 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

あはれや紀や海よりりりなき玉簪帯 同
みゆりそふ柳を三川のみりさくれ 玄仍
あはれや三崎 同
あはれや三崎 同
あはれや三崎 同
あはれや三崎 同
あはれや三崎 同
あはれや三崎 同
あはれや三崎 同
あはれや三崎 同
あはれや三崎 同

春草

竹林 露まらして左むくわうけの予程の那 心敬
わの草にまゝ一飯二蒸れ小松のれ 智蘊
壁 春のうねりの流るるをよふ草一本哉 同
わがそとれ春ののりわが小草一那 宗祇
そは風を上りり色そふ草一葉切那 同

わの草にまゝ一飯二蒸れ小松のれ 同
水切をよ春らささふわのれと切那 同
花わちと各跡かうけりそはれらさ 同
うてよまよ花入りくわのぬきめ草 肖柏
入園 みる里の人ひとつらりふまれ草 魚裁
わの草入りとをさちきりや秋の露 同
そららさのうらめはらり春の露 宗物
わの草にまゝとをさちきりや秋の露 同
わの草にまゝとをさちきりや秋の露 宗類
わの草にまゝとをさちきりや秋の露 同

春くささもまゝさ水こまわ此津魚のみ 紹巴

りもきてけさそくも若菜乃を急て成 同

わり冬所の根うーや水の深みと重 同

春の目下下くさ日ゆくりなり 同

ひさ乃と世菜之苑さく小田乃るる 同

まろ冬さ乃孫やねなり乃く松の文 同

初と人そ考もそ海菜の戸所一うか 同

苑く此根所一うけし妻のくさ 同

若草一乃根よけり一ゆふ家行りか 同

けろく所乃苑もて水をつくにかふ 同

妻を所や下り一あろすれ浅思やち 同

わろく所の山北ふ月くやちる水乃水 同

まろ一くさち成字園乃おろくか 同

山れ色もくさるる海さ苑妻聖の那 同

文もくや水うけく所のわりみと重 同

春草一り一うさ去をぬけく之哉 同

分はてし初たありししる苑此菜 同

とふ初ハ妻之見り一冬さのるる 同

あとい三の末をいくと世妻れくさ 同

つゆ一り見えよ小菜ハ妻の風をあ 昌叱

春くさにそひえ乃松や少のみやち 同

下ろくしに書るやまきさくさくさ 同

醫師玄翔真形

若くはの言りたをまぬ野人の心
春の草
同

春の草
同

竹林
老乃なるを氷里との流ぬを流るる
心敬

風や春ふありふなきらありか
同

箕面山
同

流るるを氷りやとささし瀧に糸
肖拍

園
早河をみきるよ乃らるるを氷
兼裁

壁
わつとけくむをぬるりのありか
宗長

うらりとの浪ぬるるありか
昌休

同

流るるを氷りやとささし瀧に糸
同

川に春を氷りやとささし瀧に糸
同

わの草の志さふりらるるを氷り
紹巴

らまをむすひぬまらとくやひを鏡
同

若のありやとぬや春乃のささし瀧に糸
同

初めはれよりてみきるよ乃らるるを氷
同

ありまららてと若ふ志のひ氷りか
同

とけわらぬ氷りし若乃春
同

雲月ありらるりの志ささし瀧に糸
同

同

春雁

の九

任志の法樂一

りりきあけなまの苑あくほくの満 宗旅

馬のなぐりすも乃女あきり水 同

見つくりりるまあく落乃苑をなり 同

喜みそ唱人やわれみりりふ我りり 兼載

りのえさゆるまやあめりり乃海 宗碩

ゆりう人里那を馬以常世切那 同

厚あつりりり海のゆゑ乃常をりか 同

秋さうり月やの阿く想う人海りり 同

志りりりりりりりりりりりりりり 宗物

月ハゆき雲列とあより人海りり 同

水はあつりりりりりりりりりりりり 同

月よりりりりりりりりりりりりりり 同

梅の香やきそゆりりりりりりりりり 周桂

清水と云ふりりりりりりりりりりり 同

りりりりりりりりりりりりりりりりり 昌休

りりりりりりりりりりりりりりりりり 宗類

苑にりりりりりりりりりりりりりりり 同

苑よりりりりりりりりりりりりりりり 同

をりりりりりりりりりりりりりりりり 同

りりりりりりりりりりりりりりりりり 同

りりりりりりりりりりりりりりりりり 同

りりりりりりりりりりりりりりりりり 同

りりりりりりりりりりりりりりりりり 同

おくかまの教に朽と落くわの禮哉
厚う人顔ふ急よや峯とあり乃雪
月いてく厚なくしぬ根はかも影

同
昌叱

春月

菟

うと心とき雪をわけてよらるの月
何よ風をうすめ糸月此むる星う那
月うほを追風よほのうつろか那
よふハ月さそ恒の江乃々し切まを
ならのが禮由を切まをのなハ月水
今ひと人月にのろそふう次とらふ

同
宗旅
行助

そく始へ幾風ふふすじ月兼うか
何さ初うけ月にくままぬ山をな
月にけさうすそとねとせたき此考
何や明すハ雲の和ぬハ朝う次み
月い川くそろハうすみ乃むうり哉
るさそ々わつあとうけと残うを露
春江あう海あうすをくを月水哉
月あうハかま之れ白ふ和雪のそろ
月すハ明く今をとかまむあうハ水
月又鏡あうそ鏡れよのひくきう那
月のうちによふハとさや朝あをそ

同
同
宗碩
同
魚裁
同
肖猪
同
同
同

あけやせき月のあもらん五月うか

同

あけほ乃く月をびそ秋の雲升り

宝物

山かまむ月やもろゆくみかと松

同

元月をくはと山の秋守北つ

周桂

霧心美を木にる乃月乃雲升り

昌休

走想うう人の雪や夜北まの月乃庭

同

う原む秋をいさよふ月乃ゆふ八

同

独子

同

月の色のまにまにあひをひくまうか

同

あけあのも月をまてふくを軒か那

同

ゆりま家のなかりま月乃やまろく

同

お山邊長菱千白雲月

同

つあ刃ててくハキまなんりの霞

同

遊善

同

月うすむ山乃葉てくせ小お阿

同

水上入り月やあまわ江うすくは

家養

月見まふくすくのうりくまこの那

同

く染や雲月のうくれうたかま

同

か所て見え神作れうく乃けくの月

同

月やけくおほろけをくぬあもあ

同

善の夜ハ橋るくすくおく月の形

同

山のたれす海ハ月のありさうか 同
 望れさう出つるまのり深みく那 同
 山やゆき行下ろ月秋れうその露 詔巴
 半天とりそ海ハ月まのりむらるる那 同
 月おろくすむ夜とさう雲井一切那 同
 入とさう一月をあり明の切をさうか 同
 とれ乃秋の月を舟出やあまつく那 同
 切をさうあをゆりうぬ月の天路かふ 同
 秋れ月さうくけきゆ秋かまさうれ 同
 待おしむう所や中一そさ妻乃つき 同
 所を神れ忍こぬや月乃海かろあさ 同
 月やあさの所を神れ川の小ささの月 同
 妻れ秋やあさの月さくさくく禮 同
 うすむ秋乃月さうふくく鐘のう急 同
 うささつくあり明に秋の秋さささ 同
 うとむ江を入しあさうそさの月 同
 春れ夜の月にさくれ乃をりくうか 同
 妻のよやえそくこささく秋はの月 同
 山乃繁さを海ハ切とさう秋をれ月 同
 伊一むあよそささ明の朔うすこ 同
 聖ととをさ切をさ乃さく月れ奉 同
 うけうささ月を梅ちう木の間切那 昌叱
 月を春色こけれ下をむあう禮う那 同

月乃月こめく家崎孫乃八主かまを 同

六田

うすまぬや月之六田乃草の嫩少の

玄仍

野

莓の志こ之り次びやりりふまの月

同

周防銘周

志れよや月の上りりれをれりり

同

春雨

竹林の志うぬりす之乃折の志何くかふ

考頌

草丁とりえ木乃め妻雨きふぞうる

雨の志うぬりす之乃折の志何くかふ

兼載

園 云雨と志うぬりす之乃折の志何くかふ

同

壁 何めいけさ本とすー露けさ露りれ

宗長

りふそるふあま孫くもまり妻れぬ

宗碩

譬れぬや山きふあをししを折のぬ

同

月乃まうねわろけをぬもるぬぬ

宗物

妻のあめのよや志乃くめれ層りり

冒休

竹乃葉の露やけてそよ妻乃あめ

宗養

もろぬい聖山とそむら志る連りか

同

系あそふそくとかなありけり乃ぬ

同

寄りよ飯あをこれ月ありー春れあめ

同

る於雨ハ濃乃い急とをさよとみ哉

紹巴

もみしめを木にめに見ゆる聖山式
庭や満ちてよめは海の中へ水
春雨乃三月くふこ庭ぬ水くさくか
まゆめに外や去年一一人ぬ雪此行
もみしめは言ハ新を此くさくさく那
水そとよみ記わくう海やをみはぬ
志不禮そふ社に刃念くり春の雨め
まさめをうすもこのゆくむ志つ冬哉

心若圃

同
同
同
同
同
同
心前
玄仍

蝶

もみしめは言ハ新を此くさくさく那
水そとよみ記わくう海やをみはぬ
志不禮そふ社に刃念くり春の雨め
まさめをうすもこのゆくむ志つ冬哉

家類

桃

とめこはをさきうみかめと桃乃花
おくや蹴りくゆくや海にけり此水
花ハをふわつひく冬め皇園乃りく
来ゆくをそやけりめ此園のそく
年すくくは織江の流こそ乃りく

花

花ハをさきうみかめと桃乃花
おくや蹴りくゆくや海にけり此水
花ハをふわつひく冬め皇園乃りく
来ゆくをそやけりめ此園のそく
年すくくは織江の流こそ乃りく

心敬

竹新 菟
あし

月又見ぬおぼはるを花の月日ひりか
同

ちろこれ乃喜きくりとは古山切那
同

人をちろはかハ風ふくゆふハくれ
同

咲ほくせらかきうぬまの春の夜
法阿

花み来て雲下りふまわ乃深山うか
同

雲やそれ月初ひとたぐくそらかの雨
智蘆

雪とつらうを振りう人ぬ花の切那
同

花やゆくと浅や角人けつてもくれ
考須

阿さうす之風にくくまや花をあ
同

りすむ目花花よりい山家山路うか
同

林をさきまへ花あそとふさ春めり後
同

咲きりとは花のあけりふありひ切那
賢盛

花にきそお乃くえくま山りうか
同

と浅山の雪ふそれさくまやこり那
行助

花よとりきと所人城建海ありふ
同

月夜よりよーや花あそまらぬくま
同

わの草下に花は信ゆそふ木陰りれ
同

花れりろとくすまてみせよ春の月
同

花う起て乃ちあそ人をまよと花け連
同

すそハとそ花をいそくぬ目くすそ
同

のけ水を花乃う浅忍るうくみう那
同

えさ乃さう花ハ老木の加ううれ
同

そのあうて雪ぬら花は木をえり那
同

月に初とれすしゆそむぬ夕人久れ
手おちそいああそ花此い乃ちあま
花いりふう散を折とれ木すそく船
花忍れそ見りり貴とれ乃月入付式
一本ゆく花ゆそらう想あう落りか
花そうさちまそや風乃所そふらん
阿らうまてう花そあれを家の雲
花うごよ見う望したまのなる礼式
氷なうてうけある花のうくそり那
松入りあよ風あ花乃所りりう那
風ふけそ花にらりそふらう落りか
ありいそ花は細花のうりり

同
同
同
同
同

阿め乃後花とくまふあ望ふ夕り
松よりそ花に方城ゆくあうりか
花みきそゆ貴にわそあうそ路うれ
阿らう望なる花をら所そふ風日な
思る人とう人阿ぬ花のさうりりか
らう決方と風よりのいふ花を切那
いそりそし風所人花よ成に言り
あをそふも花いあり夕家やう切那
花やゆめら家をうりく此なあり花
ふ散や花をうき者とありふらん
花をう一本のほい月にあ望ふ夕り

新撰
竹林毛ハ

乃ノ花北面ウケウハ正而波葉切那
乃とのなぐ花みる目つす久
花をた控得あしと致此而さかき
色を春入りすすめを思ふ花も
まよふ家とてさうを共とそ記書の花
あつし一奇人みきふとけをれ乃細
りすもよりをれさ記おき山も
花さ記とあさ落入り乃さうまゆか
今洞波みん夜乃まのぬれ花乃つゆ
目此波うけはかに白人家ありさ式
花乃とささび人も花なき草木うか

竹林
あまハ

乃の草の記あ家ハ雨のあささ
乃の草の記あ家ハ雨のあささ

竹林
あまハ

さ記こめと花み技なきさうりうか
花ゆりりおり人こめさ家雲をな
あさ雲れさそ家や川と花ゆり
さかさげを馬くささ山路うか
それゆりり宿とたひ孫の山波切那
あさうり人そ寄ひなる文古切那

竹林
あまハ

雲ハそれあ記さう山れあさけう那
あさ乃人乃か山之ゆくハけかのそ
あさりあ連や一本乃うけれ花乃宿
山や雨もかにやさうすうゆを切那
花又ゆ人おぼる月よのと朝れくま

竹林
あまハ

竹林毛へ

花小月あけ流傳く一此木のぬりか

目

目そ抑ふ花ハ夕ノのりろまなり

飛りうせそう成傳くらん春の花

写芳よりく花とさう也これわう一式

打うて花の次この神北かゆ一うか

ゆりあけ流傳くわあそふ花もあ

花一本う人ぬみやうのやせゆなり

花のまのあけぬハ争れも也一此

花のまのあけぬハ争れも也一此

花そちううらんとその色香う那

花のまのあけぬハ争れも也一此

花のまのあけぬハ争れも也一此

花のまのあけぬハ争れも也一此

花のまのあけぬハ争れも也一此

花のまのあけぬハ争れも也一此

花のまのあけぬハ争れも也一此

花のまのあけぬハ争れも也一此

花のまのあけぬハ争れも也一此

花のまのあけぬハ争れも也一此

花のまのあけぬハ争れも也一此

花のまのあけぬハ争れも也一此

花のまのあけぬハ争れも也一此

竹林毛へ

竹林

花のまのあけぬハ争れも也一此

花のまのあけぬハ争れも也一此

花のまのあけぬハ争れも也一此

何って先あゝ〜成ほくせも家の花 同
 物と思ひます〜きてまきけ甚めそれ 同
 何めて先あつ人とあつらふかお切那 同
 物とあまあつはやせらん妻れそれ 同
 きて志り〜きてとてとそき花りか 同
 ますてみんな何てりやとそふ春乃花 同
 まらまのぬあ〜此わの思花もく物 同
 風ぬうぬ世にふま〜禮そふ何れ花 同
 何事成世れ待人〜せん妻れ何か 同
 まら人と花〜すすめよきの〜云 同
 まらひとみ花をの〜けさあ〜物哉 同
 思ひ〜ま〜て〜何〜り〜お〜け〜れ〜花 同
 何の思悔と何りふお花と春の〜云 同
 花と心〜あ〜物をま〜へ〜云 同
 まら何とい〜物や何り〜云の花 同
 花よ〜く〜目〜何〜そ〜く〜ま〜ん〜あ〜さ〜露 同
 何〜ま〜ぬ〜ハ〜花〜ま〜何〜妻〜れ〜目〜す〜り〜れ 同
 そあ〜何〜て〜よ〜花〜の〜木〜の〜め〜れ〜と〜花〜乃〜云 同
 何〜ら〜人の〜何〜ら〜云〜花〜乃〜志〜家〜ハ〜切〜那 同
 何〜り〜ま〜さ〜や〜な〜ら〜る〜と〜あ〜物〜の〜春〜れ〜何〜か 同
 何〜家〜人〜ト〜〜何〜り〜なく〜花〜れ〜山〜路〜切〜那 同
 何〜り〜と〜ふ〜何〜ら〜う〜と〜花〜の〜人〜さ〜云 同

おもつけにきろや初花あさくは
 むね花をおもつけにさうすめ式
 うきめ花さうすめをさゆあ
 朝かきさうすめは花乃志家へ
 山見えてかきむや花のあさくは
 咲ゆり次すめは花江末すえか
 まかへ花さうすめは乃白ひ切那
 花さうすめはかきむや八重山あさくは
 咲そくはかや八重山あさくは
 あさかすは花さうすめは乃白ひ切那
 あけけの波巻にあさくは乃白ひ切那
 うろろふは花見見ゆりさうすめ
 花さうすめは乃白ひ切那あさくは
 水やぬ花さうすめは乃白ひ切那
 雨りさくは花にいろさうすめは乃白ひ切那
 うすめは花さうすめは乃白ひ切那
 花やさうすめは花にいろさうすめは乃白ひ切那
 それと見ゆ人さうすめは乃白ひ切那
 ぬりさうすめは花にいろさうすめは乃白ひ切那
 そかさあ乃庭にいろさうすめは乃白ひ切那
 雲あさくは乃庭にいろさうすめは乃白ひ切那
 うけさくは乃庭にいろさうすめは乃白ひ切那

同 同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
月花入りとくらまかりふこの世共
あきふりと月りやあけあまの春
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

花入り月夜へそ秋あきや朔初りけ
同

それと戸のふりや吉野ささやこ人
花さけハ都ノふもきくあささりか
花ハ都ノまぢひを甲方ハのりハ
いけりまぬみやこハ花のささよ
あさけとおもりぬ花のささやこ
それ入り入山にささよ一本切那
花よりふらふ花ハみらやよもれ山
花入り入山ハささけ花のささよ
ささよ乃雲くくはさ花乃ささよ
ささよふをよぬ花ハささよ
山さよにさけ花ハささよ
花入り入山ハささけ花のささよ

同 同

はかゆりあとなを井北山踏り那
さか忍はとゆも想人あ記山踏り那
知ささすや海花を花乃ゆきさか
花入り入けを山花のささよ
あささよにささよみん花乃山さ
花にささけ人ささよ山さ
たひ人も花乃ささよや海ら切那
とりけさ花のささよささよ
ささよ音入りささよの音ささよ
ささよささよささよ山さ
花にささけささよささよ

同 同

深山木やもろのり草花所り
それさうりなまきくハ若木も海の山
花もさげ山のみにるのそ花れり
山う幾ま忍れ花をきささとのなり
同 同 同 同 同 同 同 同 同

水如和里んかいさふらささ山うか
みより聖やわらゆをそれ乃山を解
之うさ山ぬりとも花乃雪井り那
三河圃よりりの人れ世一舎
けふを半く花を花をぬ山も
くむをうをけか乃なまこふ海汀り
同 同 同 同 同 同 同 同 同

水より小入江んか乃ふりこ切那
吾柳小なまこす花れみきふりか
海くより色松そ花乃木も花のうま
花とをりしやまどうりへよまの満
花所そふ山う幾らありり花れ海
山や海りりは句のなまこりまの海
ひくけきぬたのや天地代々花はか
ことりりるをこの花さく若木りか
おりのやれとんと一本れまのそれ
それまか心乃や聖乃木すまうれ
花みりりあく海ハ守りれ木末りか
同 同 同 同 同 同 同 同 同

そらに三日月の初日を花の千里切那
 色とをうとありいとほがのう落式
 見る人に舟をまぐは花のうらひく那
 花と戸のちよと色へぬへ妻木くけ哉
 をよふりちみ故とささな一花れ妻
 ぬをあやにうさなるこか乃錦切那
 阿さつゆを花に思と建て風を那
 花乃まにおもくけうをふり切那
 けくれと思とやかふる人花のけ
 ち建と所く花や常一盤木よく乃妻
 花よやちがあらひ何人故又言く那
 花の言は花りけくは白ひくれ
 花をあのときさよ待たりく花のあ
 とさい今花の世を建やく世をな
 のとあける世を花にふく花のあ
 花を思よ戸さうきぬ世れ妻のけか
 う人しう人の花や春てふと花れ花
 う人か人よ木くやあは花の花乃花
 見るたひ小思ぬ花さけ家色名切那
 花をのさ年一にのちそふと花うか
 月ひひそふ花を思く世乃乎入かふ
 花やあうぬ思ひく人せををく乃妻
 ち花を所く花残るく世れ名跡く那
 同

きふふるやふたそめー世に花の交
 花よ何ふあきりたをたえん春のな
 表ゆくよそれになま一版松北のろ
 毛海人も花より老せぬうや木りか
 花といへそわのまぬま北草木りか
 花よみとるをせハキと春のむくるを
 とそくとき花を忍乃と以人の明
 花や引くわくろうそまぬ木りけり
 あきくすささうさ花北都り那
 寺のよ也と文古りうへ下花をさ
 人かくは花のあめきやすかぬれ
 何の想ふより花となかくさむかぬれ
 とふ人よりをれのを海志ろむ木哉
 おもひほの花に又あふむひまうか
 老木小もろくをやあつ花もろ那
 花にわのゆりあのろそふ老木切那
 花みまさちきり持せぬ花ひ木りか
 花よりそふちいかに老乃思るめ哉
 うろろふくくすまぬ花の羽ろり
 露よ千ようろ花ふ志もそ花のりろ
 表とさか花にくろ世版本草りり
 露や少りひ花をわのそ北朝志あ里
 同

同 同

同 同

ら連えゆく花よりわをゆゑわく式
らまはさくといんるや面うけ春乃花
をれ行らと水うりりふ石山如那
ら家辺のまれ目もく那はかのうけ
う集や見えぬあゝ海にのらう春乃花
みらあそにまゆ小花つむ春野うか
らまは咲ぬらうともゆく花のま
はかよ老淡むれ草一つむ春野うか
ら海うこにゆういと一八よ花乃春
花をさそ待あしと花のあさかきと
まよまよと花もあもりん都かあ
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

山中のふたつ花

花と乃と松乃戸志うきとや海切那
花ハけさ松北戸志うきとや海切那
山多し一花乃見えく家う海切那
ひさうこの花よ花乃そふひうり哉
子白連舞り
見しや春明けのゆうあうはと那
八幡山務結法條の坊うく
見ゆ里しやはかれあけあのをうと景
そよゆう小花を色そふうはうり
和漢聯句
川うりうりそらう人花に浅みとる
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

世ハ花小あけりの白ふくすきうか 同

予白蓮舟一舟

うを露花に少さあひれろろをうか 同

の菖原元重亭の舎り 同

を所をれと花の子持れ切ううれ 同

よ城こあくゆくやうの苑朝うとと 同

色に見ぬ花の香きより阿さかまを 同

正記よせて白人苑田れゆとやあき 同

山寺 藤尾寺乃舎り 同

峯や花鳥れいふさくたや海うか 同

茶の栄根寺うく 同

鳥乃色と右山のほれ乃あく海切那 同

妻と、さそくすこの花れを根う那 同

堀列光明山乃城より予白とて甲 同

みづりりうか 同

わさ清とにむくると花れきうの孫 同

あし殿れ平正頼城より 同

わさ清との妻の加うや四方花 同

新田社より芳白れ連舟一發白と中 同

侍りり 同

たきぬきに切をを城花のあし 同

苑ハ世に志あれおぬふありひう那 同

水うけにぬるとも花のうりとうか 同

花と袖ゆきうふつくびう次思の那 同
これ入山ハ予人此や世里う船 同
志け山みんをやあう落花乃け 同
あう落花何う海りきわ花乃去 同
うそり乃あやをやりし花の露 同
あこれほのあそり乃やあの花 同
志ありせし花を思うるし山路 同
花乃せうて引まひけちあ那 同

吉野山よ入一小時

あんと世此花りやう山ひより聖山 同
志う去と妻や志さし海乃花何う 同

草花の情の連舞の情 同

うあうし風もかまをを花何う 同
年一も八ぬあひおもりや春乃花 同
いくち一か又そふ花にふくの妻 同
菟原重行知言此事何うを皮あう 同
わを海あう一う花乃をこの妻 同

南都一ふまうるしし時

う花いくようやこを乃を以妻の花 同
栲列念珍奇うを能目法呼のあ

とありひく

花のと花よむりし花ゆふハク那 同
法花讀痛乃片原うを万白連寺何しあ

法の花入りて記河ふまのみきり哉 同

栴列神悦寺にて

わら雲花苑にらりりいり家寺の孫哉 同

同圃如意寺永英傳坊ありて

いんをえに忍れいりりあそ春花苑 同

らりらりはこれと孫生乃白ひ切那 同

花原正盛宅より

あそみえんあ〜乃花のりり那 同

たきり世れけかみさひいぬ花のれ 同

あもさ〜と苑にあさつゆあさあ〜 同

一とれを花とせとけそのを乃花 同

りけらや花世記花とけと法世川 同

自然宗家旅とめに孫念法原寺

〜今に菊白玉へあ〜りりりりり 同

〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 同

宗披法作ありりりりりりりりりり

〜はめに魚白とと〜と〜と〜と〜と 同

〜あり小おもあまぬい花のゆふへか 同

〜ある人遊善若号連舞りり

〜帰〜とあぬ多さ人苑のああり切那 同

〜おり〜海に若の苑わら木と急〜れ 同

〜宿〜とや花まらとをのそあをなり 同

兼載

世に一本さうをこや花れけ

花ゆりる里灘の折居ゆり目くそり那 宗長

ぬにと綱あをさうん花をさうり式

満うけく花をさうりてりりる里うか 宗碩

きふ忍るや神れ代さけ家妻乃花

引とくとみよ花乃うりとり船

峯あえを花いらりきりりやうさる

み川吉聖勝平明神りり

花をさうり山やみよれ花ゆりり

田舎八右衛門の舎り

きりりりりりりりりりりりりり

花れけりりりりりりりりりりり

花れけりりりりりりりりりりり

花れけりりりりりりりりりりり

花れけりりりりりりりりりりり

花れけりりりりりりりりりりり

花れけりりりりりりりりりりり

花れけりりりりりりりりりりり

花れけりりりりりりりりりりり

花れけりりりりりりりりりりり

花れけりりりりりりりりりりり

花れけりりりりりりりりりりり

花れけりりりりりりりりりりり

春の色下りし思ひあきえそ朝くすも
 花ふくそゆてりや海くふ峯く此雲
 花燈ちけり川ときと思ふ春のな
 面くけや時し之分ぬもるのほか
 雲れ水と花にむくふ海くすみくれ
 浮くう花乃生家野人おははか乃庭
 まるふ海とて思ひあき世れ花を彫
 雨そひさや都へつさと花のけく
 あふ海乃きうしきそ花に風をな
 山河く花にふりらんみやこくふ
 花を花よ常しとわれ思ひろる春の那
 花中りのあふ海くしきと見れり
 花に風雨井ふり川海ありひり那
 花よ雪の深くかえの深りろる春の那
 花所りわみてる花あくり春の那
 けく思ひあき白ふり花み春の那
 花と花しし雨く花をすむむれ哉
 花下り春の那みりてらの山踏りお
 うすもくの花にうらなれ都人
 りくぬもく咲しし目く春や花れ雲
 花なるもくかえり花み河くしあふ
 穀山くく
 雨にふりやまらふ花やらりぬらん
 同

思ひありきふもやをわら思花の表 宗物

くれぬとやうてくらやき花乃春 同

それの香やわりのつては華乃由貴 同

ましましと花のあはけは色若く如 同

あけあのをやうとを雪もけりや 同

宗長遊善入り 同

志乃へちや花れさうりに春のゆめ 同

おきてひりうてあそ花は又香切那 同

雪やひんやぬく衆ふけを花をあし 同

二月十六日大雪入り 同

けさ少ふやけら乃そやけ花の雪 同

花を花を花を三つやうのうらみり那 同

見ぬ花のあはけ花をうけ白ひり花 同

ふか花本にありてを花は名花のあ 同

花やち乃色を入りあはけ花のあ 同

うらふふや花乃ひらうを夕月秋 同

あはけ花を花にゆめちうそひ乃松 同

あはけ花入りまそふ花はあきりか 同

きしあけら花やり本乃木と乃露 同

宗長遊善入り 同

あまふあけ花ふひりこれ春さうか 同

はかや花年し木す志のゆふ月秋 同

ありのぬる花やひらとく夕月秋 同

うけきやを苑よりさだれうその露 同
 苑に月もるのらまぬふりささく那 同
 苑と祿したるきぬくそ阿さ露 同
 立り人ぬ苑やのささふり人うすを 同
 苑み世れつてぞ残うらや心色香の那 同
 苑のむくけしりし先思ふ社来りれ 周桂
 苑をさけ舟竹乃や角を海のう残 同
 嘆そめんゆくりの千寺ひま乃らか 同
 さだれゆのほ花にみか世の本す忘れ 同
 とふやゆりふふらひに何れ花をのり 同
 一と世を苑よりささふかめ切那 同
 苑にたき切をさしよこ乃う残もさ 同
 ありに阿わき阿方れ苑思ふ社来れ 同
 苑そ都りまやこそ暮のゆさくうか 同
 瀧の三川花と雲井れ本の男切那 同
 苑やけさゆりさの心ら阿方れやさ 同
 後ささけ雲下りなるとく苑の那 同
 ちれてふにまうせてきふれ風りさ 同
 三川たまきさくり廻れゆくよ春れ苑 同
 根来寺より底入清樂とてふ命よ 同
 けか阿がゆりゆく廻とよひきゆれ山 同
 ち海あとにみちや見ぬ苑嘆にゆり 同

苑にたき切をさしよこ乃う残もさ 同
 ありに阿わき阿方れ苑思ふ社来れ 同
 苑そ都りまやこそ暮のゆさくうか 同
 瀧の三川花と雲井れ本の男切那 同
 苑やけさゆりさの心ら阿方れやさ 同
 後ささけ雲下りなるとく苑の那 同
 ちれてふにまうせてきふれ風りさ 同
 三川たまきさくり廻れゆくよ春れ苑 同
 根来寺より底入清樂とてふ命よ 同
 けか阿がゆりゆく廻とよひきゆれ山 同
 ち海あとにみちや見ぬ苑嘆にゆり 同

周桂

花の香とみち乃く山の志ありりか 同
 花之山そまき乃八重山と朝北由多 同
 うくて根入りり人家花あむ木末式 同
 花ふけさ吹何人想風の月日ひう那 昌体
 山やけかひりなるぬれうたふりり 同
 とめてあり神乃香ひりく花乃うけ 同
 りあも香をまきさるあ人想花さ式 同
 花やまひ山踏られ屋うぬ宿里う物 同
 まくらんとおり人ハ花のありさ式 同
 手投にゆくを花やとく草丁園のま 同
 さ記そめし木す点を花ハ手種うか 同
 花ハ月影花の露そふ木の間にれ 同
 花ハ月影花の露そふ木の間にれ 同

花ハ月影花の露そふ木の間にれ

花み人まきさぬうさ乃志ありりか 同

古聖

さ記之花らりりりやう一聖山 同

ぬ茂岑まき

ふけハら家ゆくえり花の若れあし 同

長谷寺

花さうり風をよそけ北ゆふへうれ 同

けふ乃目を花の外け木うけう那 同

まかへ考減むるまは花の月のあは 同

うけひりこ夕まらかりありり 同

くれ北かうきまきふりり香あ那 同

越前より海京乃時分真の

かつら山ありても今朝や花はけ

山ハ花ありともやふあまつりせ

ちうとかり花乃志さあうあひなり

常田坊府中へ来て送雨を尚座

わつらめや種ハ予さそと花はを海

新地繪巻に極木様などとして真の

うんとくやそとうししの花の在

予白落苑

花のくところく明りの小水あ

永原予白

それそあく白ひやあそ一筆に雲

永原予白十苑

苑ふ月くすそとて見えてうあかな

経又と白のふみとさそくの字

うあ淡けさりつまうう記に花の露

周桂遊善

わけほのやうらう人五妻の花

草下庵舎を染掛の電様乃時分

嘆うひそ花またそとれそち校かふ

月次初

後ハ世一都一やけ一めそ乃花

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

秋ハ 嵯峨周敏公撰教寺月次一會
白人打鉢や海をあら〜之はか乃雲 同

これて月花をうけし月家末末うか合
同

あとの初きなふとらいとん花乃と
同

花にぬよふけいゑと花ともや切那
同

う花やた子花に嘆け流極奥つなと
宗類

本此めふりる花を花有るまは流哉
同

ましくやうりふ聖小浅みとる花乃ぬ
同

みてる色とくくすの花の朝の光と
同

うそふあ〜月くすな〜ぬあそれ盛
同

う〜花や草〜本をあら〜花の露
同

山風〜雪と刃〜てやそれゆり
同

く〜花の初らなる〜か
同

めくまわひぬ種まきとさしし苑盛
 たりてあよ海ちるめ庭花所りり
 さりしものつそやえ風苑さりり
 私人此をまきやつて入り苑所りり
 切きりたき所りり花れなみ未苑
 控に小技所りりてりけり苑さりり
 見たり人とえるや都れりかさりり
 苑所りりまきやらのかをみり苑さ
 ちりしと苑わをゆり苑のさりり
 春よまき苑にまきさのまきり
 志乃くめれ山の葉くろり苑乃遊
 山ひめ乃さらぬふきぬや苑のたき
 苑らりくむくまきふ乃行を切那
 と浅山をみる人うりやそれのみを
 よちのかぬ人のくゆやけか乃華
 ちく乃人乃苑まや海へん人さぬ
 けりめく海山路も苑をまきり
 り海くりのより聖り苑におくりか
 栗津聖や苑みまきまきのまきり
 立そふや苑にうき雲のまきり
 苑みよきく吹やあまらり山

大原聖造家廟

同 同

正所一壺もをてあらん花と吉野山 同
 きふちやあをりの河花所より 同
 二坪乃や海や志々雲をれ乃より 同
 山のきえてゆ貴れ野てゝも花れを 同
 年下とるは見えん花乃より山の 同
 勝いのこそれよらと建所若れいゑ 同
 有れ所を乃きえう人里より花を水 同
 委ぬり衆前まハ花れ川より水 同
 花より水世記とめらゆく岩男切那 同
 ちるぬ海や下り花のみかと河川 同
 川の水のそとおも花れ所より水 同
端の上はありきり思花のりり建所
めくりまは花城の思ふありの種 同
 と浅山乃ほかやみゆくみと志々 同
 咲のがま河より花のそと瀬川 同
 一本より壺なる草下木や花のりも 同
 うけ草のそ花ハ野をり乃よりみ哉 同
 妻の野をい句のよひや川くらたわ 同
 藤をあげ春をいれ所く壺人のつゆ 同
 まとの雪にう花清く花のひより水 同
 くら木水と所々に花ゆくりより水 同
 下枝と毛う花とく控めや云のりか 同
 所らぬ海をあら流や花れ木を乃庭 同
 根にわたり花と花の川家なき急水 同

月ひかり山や花ゆくううのなご
 世とくかに花咲つらんわく木久那
 とさそ来よ花うたそらんみきり哉
 花と花けとせと志家花北あく海
 とふ徳の花に乃と里しをれさな
 花北は乃ちう花んを思なを木久那
 ちうさうハ一本けくち家花のあふ
 受け木久く花みらちを花をな
 人きらえちまふ何さけなる花を
 羽霧ハあたくうへくはかおあ
 さまこハ乃とらん花乃木と北あは
 ちうか花乃流りそゆ人花まうきりか
 志川うなるあく海ゆをち家花り
 ちう花北木うけに乃ちうみちを花
 ちり花北木うけに乃ちうみちを花
 ちり花北木うけに乃ちうみちを花
 ちり花北木うけに乃ちうみちを花
 一花トしおのひ屋う海く木まうれ
 花を葉を海く何うを思く木乃め哉
 をのりえにやせう家花乃下葉か
 花の若しし思ひなく何あまうの風
 ちりそむらまてふ花のわりまう那
 同

天津くさうさやび花の本くげ切那
 々々の音と下かめ糸花の夕人うか
 うろのひ入門乃ちうさやもろのけが
 あげくあよ乃こ産ねとを乃春乃花
 ちさりーしを何そを何この花北交
 ら種入りー言りあく流れあ乃花乃春
 花のまにむりーれこ所の種をうか
 くやしあやりの冬あきでの云は花
 物ありひれふやむせぬをれあく流
 括しし根を来しく花北わう本う那
 よとくりの花乃種あそひとあく流
 け花のうさやび花のうさやび花のう
 け乃けかあそうさ家のうさかし
 さうつあもさうりーそふや花の扱
 色うさよをふさるー花のうさ流式
 散流見せをあくとを見せよ春の電
 けらめ見せせて門内を花のあるし哉
 うさ流しをけうさう後を花乃とも
 守人入り久しき花乃さやこくれ
 めくまあふのまれなる花の都り式
 ひくけ畑く心乃をれをう集り明し
 あまなうの草しをわうりー花乃在
 けうあ家やを何人うさ花のや電

同 同

鳥比言にかあ落ひりてぬ花を介
ゆくまゝと花よささめん宿の形
よもきふをみちやあまうこの花の平
行りよこ空たきい花忍うう落り那
花れ香いおくあう道のまうへり
思ひおやあまうま吉乃花のを心
花にみんひり末あのみあ飯繁り
何方に思ふ花も一本のまうまうあ
敵神よこれをもろそふくすま切那
雲とわう水をわけけめや花乃のり
宿わらん花よままきまけりけをな

同 同

花より少く河をまの聖分あ
花よ少くう花や根木のれ乃く
たえぬ根や花れまうま花乃えさ
うけさわいなまきん雲井乃花乃神
けすてまをうまハまうじ花乃
花園のすまあのとあるわう本うか
花乃香い園のこあこれあうり
生おくまかそれむるしん家の何あ
をらうまを乃アう人あるや花乃宿
お乃こは本末ははか乃たの根うか
それゆり色まのあ乃ゆまハ切那

同 同

昌叱

花入り来く花なき花やまのり
 花の上やうとまぬ月のすく
 くらく及ハ吾れおけか乃わう
 ちぬぬ海残う人ら花のなうて
 吹くぬえ花の香りふと花れ
 山寺の之軒につくぬ家之也
 とわしと花ふるむむむむむ
 花に月入り世と月と花と雲り
 あと花葉とうつむや花のふり
 あさねとまの葉や花とそふ
 新寔

花と月と世と花と雲り
 花と月と世と花と雲り
 花と月と世と花と雲り
 花と月と世と花と雲り

花のこす花のこす花のこす
 花のこす花のこす花のこす
 花のこす花のこす花のこす
 花のこす花のこす花のこす
 花のこす花のこす花のこす

二月十六日

花のこす花のこす花のこす
 花のこす花のこす花のこす
 花のこす花のこす花のこす
 花のこす花のこす花のこす

易者真り

花のこす花のこす花のこす
 花のこす花のこす花のこす
 花のこす花のこす花のこす
 花のこす花のこす花のこす

たかてまらしう河やかたはれはか
あさひのこ風ま川をたあを葉か
そそを神りあさぬ人ひり小苑の宿

遊善

苑をらり人をたき世れゆるる那
人なるまややとやう一苑のゆは

詠中源氏竟宴と真り

あつとひり苑やととささく峯乃雲
もとつ香やこふまてあつふ花の露

ふか 金糸様

よしやち花地まにあそ笑ふれ乃春
ゆきあやち花の地まにあそ笑ふれ乃春

蘇州

あつぬささ見そあてくや一春乃苑

玄仍

みよ一聖やえぬを花み思うやこ人

舟遊

そろ世酒をれのありまてありあ

ゆきと風花よあさりひり月ひりか

苑にうひく力をあさりあさりあ

苑らりて川なまわさぬ山路りれ

あふ竹をさあさるありたり苑の庭

遊善

苑の末をかましと種をかありりれ

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

閑列の饒別心
ちきりあまや風吹世れ花所り
お南田河
所る里うくととそくや花のさやこ鳥

揚

ゆりきやと所るうりもとれ夕月
揚所く庭まさ入いそののひるめり耶
所を死やあめれう人なる山さくら
や海揚までやみやこのいれさうり
花を春ゆくりあうりうそそ所くら

新撰 菫

花を春ゆくりあうりうそそ所くら

明日をみん都にちくぬ山さくら
花あうていりかき雲そや海さくら
よ海登るるう海まふたきりいと揚
月ふうひてあ花葉に成想をそさくら
まら菫に思ひししくよをそさくら
所くうさくと花山まわやこ人
かて先さくらやまみりやまさくら
ぬにこれ揚にくと海あさくら
中りやあうりく花雲う山さくら
山まわり風をはりて想さくらかみ
さそひてをいさ所くらとや夕月

竹林

阿 盧 頌 行 助

阿 盧 頌 行 助

竹林

あつらふとやちとぬ花とを思ふらん

山さくらとちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

宗祇

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

山あけちと花とを思ふらん

宗祇

あそくらやうとあそくらまのりら 同

振別念孫寺の苑を始と見ゆし時 同

見まえ見ぬ春さくやしや梅桜 同

まらぬあま雲あそ白梅やまさく 同

山さくくあま雲乃よそめり那 同

咲とみんまやき井のや梅ゆく 同

うけあまのさくあはやくと井れ山さく 同

よそに思ハ新も物雪井や梅さくら 同

きやらもれ梅あや白ふさくくう那 同

さたひてよ八まうり露れ山さく 同

山あくらあまをまを苑のむらむら 同

年乃内苑の苑とらうき梅あくら哉 同

うさくくうとくさくく山木さくら花 同

春ゆく世松よあひあひれ山さく 同

神のまゆ木末や代々梅あくら 同

たねとぬとうけよ神一箇のや梅桜 同

あくらさのあろと手あうき末末 同

まかへて花を神あやまさく 同

花乃と里とくさくく山あか那 同

あくら及と咲とままやなまをく 同

あさくく門よりあまあまさく 同

あひにあまや門を梅小家さくら 同

さねうらひ予さそとやまの時のか搦

尾張守奥坊真行の舎り

さかまきも花やあさ露八まさくら

咲くくせもるあよそ社乃花所く

風之助一四方とさくららの妻目かあ

布敷子之泣眼嵐突世一舎母

咲散り春かまらせそをそさく

うた物さのうらやさそふ山さくら

搦あくとれをいりあは草一本か

弓をぬけるやあは人さくらり

あけあのとやあ搦戸のあ

けさ搦雲井一りりりりりり

かきいり一本急りりりりりり

小人連言方とあは人あ

花に思心れひうたあまや初さくら

あく乃人此四方山さくら風をな

八重子かふ雲井一やありりやあ搦

うたやたの詩と一なまのあ

さけい又本は海や月のをそさくら

申しにあつあう海とさ花やあ搦

ありにたりきとあう海一やそ搦

うらひ思ひをう花よるまやまあくら

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

涯世よをまらひ見し花のを流さく
所くく多よきゆるやそめしあき霞
根や日月こありし二本此所くく哉
所くらくりとて浅山まりのまうて哉
菱山ふさ花くわら名やとそさくく
袖くがぬ雪の忍こまやさくくく
ちくはち禮雲そ氷室此やぶさくく
下投まそこれさくらはのま本く船
白人加の雪のぬか乃くまはくく
花入りぬる雲やをぬゆふ山さくく
赤雲むるぬるをゆのこさくく人
かたりのをぬる月やのぬる
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

熊野寺後山人の巻

山くく乃むくてりを流さく
世に所くくありとそり流冬之山式
らき流らんけさや芽目此初さくく
とくくはかゆくへぬるとのやぬ搦
さくやゆくふ世とみかりら花搦
所くやりのにみゆさる山の初搦
一本もやぬらのゆくさの急さくく
きふ搦いさとのゆそくく風のな
浅くくぬ色名をぬる八重所くく
分てそ此種やぬある初さくく
ゆくをみんこゆく人てのそく搦
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

いふもくを思ふもくをりさき櫛り肌 同
らりり人へ里嘆やををそふ袖さくく 同
をよさくくやと後山八をさくく 同
袖かふ風雪此みさきやさくく 同
をれよとくくとも思ふよとそゆくく 同
まゝてさげわりのをのまとも物さく 昌休
山ハ今朝本れまの雪りそつさくく 同
法隆寺まくとくく 同
夕々ゆきをきつあめさくく秋日野 同
今志りしゆりまてともや袖ゆくく 同
あけらのやまかふ上の上の山さくく 同
朝かきさくく嘆掌へぬりともか 同
そつゆくくあまのこに履くぬき巻 同
ゆき地者子白巻 同
新集あまやうけそ子入の山ゆくく 同
うけい人のとまふへれさくく 同
但列竹 田安積美流守新寔ま 同
ゆりりてふ花やうけをゆきゆくく 同
田舎より上洛の若旅真ゆり 同
かやいゆことくや花の初さくく 同
又にかやゆきをのみこまゆくく 同
本々にたうゆゆ人むれさくく 同

後鳥羽院流正忌とて水世漸敷沙不重
ありぬ色をさくく上と見り色哉 同

花を染横沙雪白盛花と 同

そくわんれ雲をさくく此本末りか 同

先所のそのろるをいけさくく式 宗類

一本さく花やと心ひとて所あり 同

うへう人そきや子種之初さくく 同

名乃とあそせりあふしく此初搦 同

ぬえれくま搦りろの雲井かふ 同

春いく世妻入りあひ生乃あさくく 同

うく衣にやみらさまうさあ乃搦り 同

志さ水やうへそふ産れやぬあり 同

ちりう粉想たひやあうくまやぬ搦 同

八重入りさく色とや苑の連さくく 同

ゆう花春あくとせよまをそくく 同

玉さ連のこくめや海との山所くく 同

たりをまにさく山やわり家さくく 同

水や雨雲入りくまぬかやまあり 同

志さ雲入りうくさ所をか搦はか 同

ひさくく乃雲井乃産り山さくく 同

見る人此あるやま入りなとを搦 同

春きそや志旅人さまろやぬさくく 同

関山やそく所くく戸れくくめり 同

同

ひろくやわかろふ都一の歌あくら
 うく衣に此孫ぬとうくもて揚かみ
 雲ぬの下繁そあゆきまさくらくら
 空方にえさゆき木寄りのし歌揚
 嘆そらんわう校や花をそつさくら
 まてとりふにちうとき花を揚うか
 かのちあ乃ちにまき家なうさくら
 若木方とらりをまきまぬさくら
 三井寺まき
 雪さええそ又と人あうのな海あくら
 ひと人けくらりての後や山さくら
 昌叱

新造

そつ花やあまあつため家あくら
 うくなまや風まう記そふ山さくら
 誰とあ山あくら戸れあさひさくら
 一寺ひまあつそつまき初あくら
 周防まて揚平中務
 一とれや一本れ中乃まあくら
 玄竹

燕

雨の月とくご飯打を此所をさくら
 宵拍

梨花

ぬやうろかゝ山なり一の阿さ志ぬ里 同

苗代

苗代ふやうりまのさきまろつ阿さるう那 同

あきさかしの蒔や堤井れたすのりの 周桂

苗代のさひのあ人のぬふく電田の那 紹巴

引志ぬれたを志ぬ垣や種一乃前 同

苗代一秋と志ぬぬる乃田面かふ 昌叱

あん秋とふく志ぬ水のゆく志ぬれ 玄

お小田原

苗代一乃川ぬぬ水乃みとるうか 同

はかのるん手を八掌乃様入れ 同

春ゆく世みくくゆりりの玉つとさ 同

年乃象ふ死やみきり乃玉所をさ 昌休

お信貴山平光院真形

花ひとくあくま八まのれつとさ 同

あつ上人真形 同

うけまこれふたこがまたりぬ様 同

あ川さ弓八于世れ花うぬつとさ 不養

花乃さりま常盤木れお所をさ 同

繁く種一ゆくやありとれ玉様 紹巴

遊線

壁
そらそられくををいとのそら抑り哉
いとのそらそらををいとのそら抑り哉
いとのそらそらををいとのそら抑り哉

永目

永目ハヤ海堂り北尾乃うくそり
苑やりにりりそりぬる海目なり

国三月の子白連舞りり

むとひあをくそり海と思ふ春目哉

春 伊勢より三川へ下りり時

あひわいそ大信とをそり海目なり

他人のやをりりむむりの言目りか

あき江氷八月あもあき一春月の那

永目とおりの人をゆらん年をなり

雑子

あけくくとあさほゆえりぬ雑子哉

あしちやくへ八峯ハ錦きりけり

わり草一のつまごめは鳴きりそり

さきは吹りりけや山乃美うすけり

あこめれあけりりりりりりりり

雲雀

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

宗碩

夕ひそりらと生と花の成やうは
ひそりなく野人のむく詔花之なり
宵伯

莖

むくさたや者よりふそ花をそ禮は
月波はめのまをゆりてのすこまは
搦り望く人何人れすこ禮う那
清もくくせを忍れやまの花切くそ
宵
宗後

周桂遊善入

雨央く野や力と信くく我をそ禮は
わりてつめをそま咲野の花うそこ
宗牧

霧を袖よつむ色く匂野ぬをそ禮は
それ落く本信志め何をすこ禮う那
宗養

花うそそめあうぬ何りそ忍れ草
同

そままゆく乃人ハ千種の花日那
同

野人やくくまう花のうられつ不莖
紹巴

野人やくくまう花のうられつ不莖
同

野人やくくまう花のうられつ不莖
紹巴

蕨

竹林

ひくさたのらりと末野れわうひは
山人れをそやりお飯くらひ切那

山人れをそやりお飯くらひ切那
紹巴

お江戸

早蕨をわうひくさた乃根うく
玄仍

若しりそ峯まで夜をゆくりりか

松乃より新葉をばかめふちうら

松にぬら千草とちき流根あり

あちうねを心取とをゆらん者持

散りえ乃うう葉小見こ思きり

あちうねを心取とをゆらん者持

あちうねを心取とをゆらん者持

あちうねを心取とをゆらん者持

あちうねを心取とをゆらん者持

鄧鵠

若しりそ峯まで夜をゆくりりか

松乃より新葉をばかめふちうら

松にぬら千草とちき流根あり

あちうねを心取とをゆらん者持

散りえ乃うう葉小見こ思きり

あちうねを心取とをゆらん者持

あちうねを心取とをゆらん者持

あちうねを心取とをゆらん者持

あちうねを心取とをゆらん者持

あちうねを心取とをゆらん者持

あちうねを心取とをゆらん者持

あちうねを心取とをゆらん者持

歎冬

薛舟

あちうねを心取とをゆらん者持

新撰菫

山ゆきのの八まゝの香清く家みさるる
山ゆきを八まゝの香清く家みさるる
山ゆきを八まゝの香清く家みさるる
山ゆきを八まゝの香清く家みさるる
山ゆきを八まゝの香清く家みさるる
山ゆきを八まゝの香清く家みさるる
山ゆきを八まゝの香清く家みさるる
山ゆきを八まゝの香清く家みさるる
山ゆきを八まゝの香清く家みさるる
山ゆきを八まゝの香清く家みさるる

宗祇
肖指
同春
家物
同
同
同
同
宗親

暮春

花そよぎ切りて暮やあけのうら
花そよぎ切りて暮やあけのうら
花そよぎ切りて暮やあけのうら
花そよぎ切りて暮やあけのうら
花そよぎ切りて暮やあけのうら
花そよぎ切りて暮やあけのうら
花そよぎ切りて暮やあけのうら
花そよぎ切りて暮やあけのうら
花そよぎ切りて暮やあけのうら
花そよぎ切りて暮やあけのうら

心敬
宗願

新撰

かろくつて奔る連りやよひ哉
園
るる花ををれくれまて極太山くれ

るまきくゆくまへくくろり花をな

ためくゆふあゆふゆふあゆふゆふあゆふ

うくむあゆふゆふあゆふゆふあゆふ

うくむあゆふゆふあゆふゆふあゆふ

をそそとく咲てとくらせをゆ乃苑

くれはゆりさたてあゆまや苑の春

まよすそらゆ梯あまをそゆく

らり遊るぬまのくれまて山さく

苑は春うぬ男あゆそまのあ

道志くハひと里く人らんまをな

吹とらより色ぬや雪踏る苑のう

恒若社乃法樂

ふ苑所の草れ草一はめきふのけ

きふ乃ととおもくそゆ禮まれこれ

りふ乃とを思りんくれあらよ乃春

帯をさそらまきとつとみん老れを

うけ乃とくくまん世をあ記ま月式

苑は春わが葉よくまぬぞのふう那

おもりのやつふれ跡を之苑のそ

宗勳入道尊の舎

宗強

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

肖柏

同

乃とまらぬぬ成ありん花りか 同

栲別地持寺万白蓮舞 同

くれ乃と連嘆り乃ちうけか此春 同

らまふそそ散よりを種一花のけり 同

恨一よ花やりにまき一宇亦此春 同

あふ原負継甲沙汰乃予白 同

春入しうひまをいぬを此三月の 同

とくらひもやうひと花のなきけ哉 同

海原さとあふそそうみりふのま 同

あをいとそけいふわの家とも花乃ま 同

春のまにけりてと花のま 同

まハ世にまきりんみり乃終りぬ 宗牧

咲ひく人あひあそを成れま空風 同

壬三月五

于世をさそ人のあふ海にりふのま 同

あゆさ弓ひ人もやうひ此月日か 同

あえ乃とせまうきと山のまふれま 周桂

大くこの月日あよれ一もるのくれ 宗類

あけハ春と思ひらん何人并れり禮 紹巴

雜春

竹風吹ぬまのそそれりやあひくうん

行助

春とるし松乃切ゆーやわうみとるし
壁水や春むをこ海りーさらく流るれ

まゆよりふと浅山あをー春の満

うららひき世をこ海風れ草木かふ

る人て世れ風とあさめよ神のま

う染や春水えうーぬいを根うれ

松れ色ハあひよりい海春野切那

流とーを思んんる乃や海らうか

大神文法樂り

あきらけき春月やあう八神路山

左抛祐法樂乃独吟

あきあけみりーそふ春のむらうと水

松りー小松千世にゆく世れ春乃を

春とをしし松み小松れらよ乃けう

春りーあけまよにるんあのう染

春とるんうい乃春の祿やらよれ飯

唐室まきの舎り

和舞ー乃ううれを秋風も裁宥の松

玉津嶋社ま糸結せー舎よ

春成やハわいのうう風まら乃うと

春示白申ーに源頼岑城ま

あひ行りふや雪里や花のりかよと

菟原正将九十歳れ春乃會よ

宗強

同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同

肖拍

同

百と世に三川ともを——予世の春
まろ乃上ふな波ゆく女と世宿れ妻
同

丹波乃圃まき
志家や妻種下りきん松北千年山
同前

難波まき

何事れ春とそくやろやなるよそく
同

友代あそ

八十崎やあさにはささりのを海北満
同

大そくとうつはや草下本妻のりろ
宗碩

ゆりまきくに夕うけあめ春誓切那
同

よそふける妻風いくよまの北まろ
同

あつさみのりふひまうへ下筆乃松
同

何になうらよと春日は信電ク那
同

阿さみとる妻波うのつね水のなり
宗牧

けく風乃水草下きよまのつれりか
同

妻を乃けるやつりそりな海正まき
同

春ゆく世くこれ山と庭とのま川
同

てくは月乃川上あまのそろの水
同

まろ婦り寄汀ハ鴨乃そや海切那
同

あまいさそ妻のりろく乃園の露
同

松の色ハ妻とときげの本すあつか
同

けしたる北山や雲井春のま川
周桂

と海に今朝子墨とめられま月くれ
同

寄つ所六にそむやゆく世れ妻の如
なふうそ然風吹ぬ月共雲井くか
松松入りあひ生ゆく世わのみと望
つる初し一ほくみ井ゆくよ妻れあ
あさみゆり妻野を松れ志く繁りか
松入りみん春りや子校れ深きやり
ゆりふせんこ世乃そ草下の妻乃妻

独子

妻のきふ朔日なうう此のけを形

天地をひとつゆらなるそ然野切那

あさみゆりそうに根と所を春野式

天のたつあそらとせれんか同日

せう記やわう葉みより小予代之草

松小見よのやや乃妻の若みやり

徳とあそゆ妻と継尾乃寄うの孫りれ

秋う樹を志くさゆえとくし葉乃露

露そとれよかハ若葉れそ乃くきく

と浅山やゆ流りぬんるあそ然の海

よ心浪のけかれあわりうゆくそ具

そくつより若や天つそり鳥乃あと

水やああそふ家木乃あれ阿さ附日

そそあそけさうさ一海乃あそハ哉

隙入んこ思りろや木のあれ妻の阿あ

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

宗類

紹巴

正急いぐせ年ハ新葉乃や池松
 ゆく氷乃志こ日えりきく春野久
 初る里乃きしり急や野人の春川水
 秋乃志とまより津山のこす志切那
 ふありたり山田やう人以春のみと
 けり約まつかきとむるやを海北水
 あさ露ハ志くれみ海北末乃めうか
 山河「れめく」里田うる決すそま
 教乃きまこ急ある海北の急野那
 まろ風の春乃教乃ぬ海くらうれ
 急よそまこたひもなく所の候つ急い

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

急のいりり急切きたえぬ急の候つ急
 たな河もれ雨まよりけりその急
 ちう急江坂たより里にう人以急田急
 草乃乃たりやめく急海けり急の急
 秋むる急まよりに急そふみと急切那
 大原呂津川 あり急
 まろ急水やあきの水急む津乃急
 急のいり急もやまきり急これ急
 春ハ急の急も急急急急急急急
 みと急急急急急急急急急急急
 急そりん急急急急急急急急急急急

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

久人因水やひてそよ秋乃りろ
 本と入り先松ありそまき程もろの色
 将蔚入りそろかきそ一孫も灯切那
 あつさゆをけろを野山とあろ落氷
 こかとのあひ乃海おちや妻此風
 せうの人れうてのりろそふ継尾切那
 浦おそひり素やそろにそ家のこは
 ゆく袖をええやあさうけ家ま目うか
 孫何人かまて春ふ若紫此菊色那
 八隅あろ世い妻此目此ひりかふ
 松人やあろ落のうら色を秋此う撥
 立物人かまて春ふ若紫此菊色那

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

立物人かまて春ふ若紫此菊色那

草丁よ木にまわめくそのむろま武
 舟人毛あろ落をりそ想ろ秋のうそ
 一本此まのふりあもやわろそさり
 江乃水や山のふ川之れを家乃りろ
 古くそとあろに乃とあぬま目うか
 りえおそひり水と落ふあ一八うか
 今りりたきゆりりの新此ま目かふ
 わりみとるあひ生れ松や子く乃妻
 伝人毛孫さまんや中のも秋目うか
 ひさうそ乃そろにあすふや宿此ま

同 同

お給巴満六十ふと

くたぐくぬもえてるを幸ハびつふ哉 同

民教法中おこや流下見送割高羽 同

鳥乃多羽田や見を流を河の水 同

春六方流ひまのくぬのうけのなり 玄仍

お岩浦吉河の真真り 同

何く流石もいそくふ山の雲月くれ 同

お甲別 同

思為をあをまらんふ乃野やぬりふ 同

何雨酒折交をふ 同

片ふ乃まうくとあく此水乃雲り式 同

發句の巻春初終

發句白懐甚部

百合題

更衣 才一

余花 才二

新樹

苦楓

挿取

摘

布花

時鳥

夏草

夏月

牡丹

葵

早苗

又月雨

櫻

百合草

蒲

螢

氷室

白雨

麻

石竹

夕顔

扇

牡若

葛蒲

青梅

梅雨

蟬

槐子

苦竹

水鷄

海松

未摘花

榎子

常夏

蓮

納涼

泉

清水

後藤

雜夏

八光

常夜

秋

秋心

白馬

東海

水

海

世

水

夏

夏衣

新撰

うらむてあよぢ花染りあけりき

花そめとりぬあけりきやあけり乃雲

園せめくまをさてくう人よ花あけりき

けきを霞うもふもくやあけりき

あけり色を雲のこけり人ぬあけりき

山娘れそむらみとるやあけりき

蟬のそやけふはけか染るあけりき

それそあやひとへあけりき乃あけり衣

宗祇

同

同

宗碩

宗類

面影をたまたまうらむるんを月あはれ之
あつたうをうらむるぬをれの花念りか
きふく人は花をぬいあをうらむ
たらかぬくあをうらむ花のわら葉哉
同 玄仍

余花

園花乃ころあし月を後乃三月のれ

春も見ぬむらりや若のそあくら
新撰 花と志こひ紅葉残りそく若葉うか
花乃こ家より葉のうら花本末切那
わら葉より又花おとほつゆりか

宗祇

志けりし中一に一葉乃花をうら
花よりわら葉とをうらむ一又香哉
花の本と忍れそ千人のわら葉うら
いりと思ん花のわら葉をみち
うらむあひ花をうらむれまうそ
う葉清し花乃らりゆ人あつたは
それみよきな月をうけあむ柳小
雪のう人ふまきうのき花の若葉う那
深山ゆをゆのまやをれをかつの庭
な月けく山路や花のをそあくら
根よりわら葉を志乃そん若葉哉
同 宗祇

め之阿や^一と^ろや花を^ああ^つ衣
りふ^友や^りく^阿く^海乃^花阿^りり
花の^りら^此る^さて^やの^流こ^の衣
り^らん^之ぬ^うせ^やけ^か際^友あ^りを
さ^けい^ちら^う花^乃本^此る^や衣^のう^を
う^流ろ^ひし^し花^咲く^人家^わの^葉哉
少^心世^をを^神そ^わけ^のや^海揚
花^やり^くふ^思ら^うる^まなる^若葉^哉
夏^一り^入く^さく^もや^なう^ふ春^の花
同 同 同 同 同 同 同 同

平野教法真跡

花の色よそめし^く海^や夏^ある^を 昌休

阿^くく^色乃^阿く^り色^そふ^履あ^つ衣
く^染あ^らふ^りわ^く葉^ハ花^の乃^末う^か
花^をゆ^きけ^之な^の山^やも^るの^水
う^染や^花あ^けい^らり^らう^衣本^こら
と^さを^いり^わく^をれ^予入^花の^ゆ貴
花^をま^さ乃^らう^くう^人れ^若葉^切那
花^より^さを^みち^みち^必若^葉う^か
思^らる^う内^ふを^れよ^りお^家わ^くを^六
う^一花^のゆ^く里^を山^流ま^りを^くれ
志^けま^た花^まの^一相^生乃^花の^邊
う^海や^あわ^りえ^乃そ^こ花^をな^り
同 同 同 紹巴 同 宗親 同 同

わの紫ゆとふやとさむとを所く
 苑なうとむとらん風乃わうそりか
 苑にうさ阿とと行り小若葉切那
 阿川の志とりを苑のゆくゑう那
 志家へせ一人や志け里の山阿くら
 大嶽やのりりもあつ成えつさく
 夏山をたぐすてるかとみかと川
 那一乱乃後阿とこまて
 苑をよとまら葉小阿くや山阿く
 苑にまのわうととたう想あふ後式
 昌叱
 玄仍
 同
 同
 同
 同
 同
 同
 同

新樹

我ハまことと城山そむらわうそく
 志け里さぬ神ぞ禁乃法代のうけ
 峯すきのみ志け海りう人乃措かふ
 夏とあさとのりのさまうけの唐如葉
 志く家木をくつやま阿か北法葉式
 茂果木を葉守八神のやせと切那
 多やむむ格乃葉志く果とすゑうか
 苑のえさくくなるりのあ夜木とら
 志けらぬを苑うくたまり木同切那
 雨とまうとと志なき桐のわの葉うか
 わめなうとくぬゆく文なる若と切那
 賢盛
 宗願
 阿
 阿
 阿
 阿
 阿
 阿
 阿

竹林毛へ

園

わめなうとくぬゆく文なる若と切那
 雨とまうとと志なき桐のわの葉うか
 志けらぬを苑うくたまり木同切那
 苑のえさくくなるりのあ夜木とら
 多やむむ格乃葉志く果とすゑうか
 茂果木を葉守八神のやせと切那
 志く家木をくつやま阿か北法葉式
 峯すきのみ志け海りう人乃措かふ
 志け里さぬ神ぞ禁乃法代のうけ
 我ハまことと城山そむらわうそく

志々家とふおくしうけなる一本哉

木れりとを忘れ家柳のすゑを成

若葉小く木束いそふけりせ日なり

山あ井のそりしるかろき若葉哉

庭清ししわつるれ露乃阿さしそ

秋風とおもて志々家木のそりれ

志々家とふまや千枝のひるしそ

志々家木と思ふや下草しそひれ松

いそたえすこをれ志々家柳の那

志々家木と申しそぬ涼山哉

世に志々想らちるやあつる夏木互

いそひるまや海ハわつるれ錦うか

深山路入り忘れきいつもろ落葉哉

山邊うそ

志々家とふ河う幾あもふ柳しそ

遠近のさそをそや海れ志々りうか

来ぬ秋乃う種お軒まかふ若葉切那

目うそよるしりてのぬううそ紅葉

わう葉あを秋ややりきうそをそみち

老そてふ疎むるそりれわう葉うか

心くひとほふ子とのまろそ切那

宗祇

同

同

同

同

同

同

心

同

同

同

同

同

同

宗祇

同

同

周桂

同

妻の河女林北つゆ忍るわつとくれ
そよや志家阿くくくくくく乃若紫式
同部

露乃のろを時ぬそく星のりくを裁
昌休

露之予よ秋乃下そあ北わくそくれ
同部

わつとくゆ色のあくゆろかふ峯乃松
宗親

瀧北ゆや唐笠そあ乃す川木くそ
同部

と山木を常一に志けりそ夜日な
同部

常盤木を紅葉ふそ秋よのわく紫く那
同部

色りーみんあといの林りくそくか
同部

秋の露乃吹そとさきりゆり
同部

せそとに志く家木末乃一後祿り那
同部

落葉せーあといと山やあつこくそ
同部

とさきそきやわつとく北中の浅みそり
同部

と露を起のそれをわつはれ白ひく那
同部

うくくぬや山之あくく乃あつ末立
同部

ゆー乃をれ志きりこきりさか面裁
同部

秋や日くむ志く家色北木くのゆろ
同部

志く家木乃志川くや勝つ雲のそき
同部

秋ひくの木枯を志く家そや戸くか
同部

一とそ志く家やひく戸玉やあき
同部

松北夢けくそくくくくくわく紫くか
同部

新らるる志多りて山を心まよふなり
同又おまぬ厚かきのやうさ辰里哉
阿さ附月所をうさぬ海く若衆かふ
志々家きいひさうこ此山と色うか
海中一に志け里本堂うのふ柳一切那
一とみ志うふや雲のひうやなき
一本より二本よ志々家のまを切那
常一盤本れわのふおあさぶと山哉
本枯れううさとくあ家よりそうか
辰里そふ来のそや新れいひう
志々り合と殿やりさなうぬ校りか
根本入る志け厚かき
同

とさそ本よ志を心まよふなり
同又おまぬ厚かきのやうさ辰里哉
阿さ附月所をうさぬ海く若衆かふ
志々家きいひさうこ此山と色うか
海中一に志け里本堂うのふ柳一切那
一とみ志うふや雲のひうやなき
一本より二本よ志々家のまを切那
常一盤本れわのふおあさぶと山哉
本枯れううさとくあ家よりそうか
辰里そふ来のそや新れいひう
志々り合と殿やりさなうぬ校りか
根本入る志け厚かき
同

三井寺よりて露上里見尾張守遊善よ

病交を秋く染まき思木乃間切那
秋みちり二心るりハうさ若葉久肌 同

此遊善
同

神乃う人此露をわつん乃風のりか 同

木枯し一をよま山此志けり式 同

あうし一の雪此消るや木乃本さち 同

忘りりうひくた紙とさこさ此指表 同

秘人し一をんくゆく年一木乃本立 同

葉と志け之冬枯し和こや夜こさち 同

露とくれ志る思若葉乃をみち切那 同

一もとを子投とくさの志くわりか 同

天不し一人ねん授る木乃本立 同

常一盤本之流葉に志依ふ志くわり式 玄仍

水野舎所

松原乃志くりにをよふ木このなり 同

二村勝次郎新造乃舎り 同

阿くらしき折をそ人ある若葉久肌 同

わの葉あをそ此色みも依こす志式 同

石信列字家城

少の支若あさくあをさち若こたち 同

若楓

う幾ゆるくあさほゆまをしりう楓 宗祇

秋はを今よりわりのくわくわえて 同

しそつせよその會えん 同

あさや露ハ一ほのをうれわう楓 同

あさつゆれ玉られらう世若くえく 肖指

秋うけくまなは露やわうわえて 昌休

下水とり少うわのほりあうりう楓 宗粮

採取

香いゆとくとう神ぬく一八言賢本 同

神一急と熟手一ういを採切那 宗祇

ゆりそめ一又まかそらぬううき哉 宗牧

摘

左花乃す初ひ下りあさぬひ免の雨

だち花ハ梅よりうう家まかひかふ

ふ月まの花の香ちうあえさるる那

竹 橋入りそくひり初と乃ゆき日うか

壁 互花にあそと志乃少家のさをも切那

摘ハ昔うのふま一若そりやうきん

だち花乃露にうか家やう毎のえさ 宗祇

それ葉さう人けかうり花ハ色きう那 同

猶入りいそくかうけしり急のう装
ひまかふゆの装や立はか玉とさき
猶入りそあまてまかへの装のま
うらそれも霜とくつふれ打をうか

そまよの社家まそく

立花にゆりあを神にむしり那

立花よまよまてみちふ月うれ
あとり人まむいうら花のまゆひ式
同 肖拍

秘人乃やせやうらそれはあのをけ

うら花にまゆあやふゆまむひめれ面
うらそれをけくまんうてれまゆひ式
同 宗物

あらそれをけくまんうてれまゆひ式

あら花ハミ残あをせうら白ひうれ

たら花をあとのもまゆれ白ひ切那

あましりうらうふゆく花のま月うれ
同 周桂

花にみよゆいとままゆれ世ま此法

まま見ぬ香にまゆふ花のま月うか

たら花はまあそとあふゆ打を切那
同 昌休

下内右部左束門真形

猶乃けかたのちなるまげひ切那

うらそれのまかひやゆつる梅乃花
同 宗養

たら花は花ともいそくまゆひ切那

うらそをかをまゆまゆのまゆの例うか
同 紹巴

播のまぢひすし乃こにむくけり那
立花をさうみととせれこさるりか

同
同

和花

竹和の花みとをさ言孫や去年し此雪

心敬

うの花は月よりさかくまらぶり物

智蘆

織とかは麻手りつ巾の付かう流木

宗碩

新撰

卯花乃うけに水ぬりけさの月

同

うのふれく月くりつま乃をれゆえ

同

うつふらるる里分流されむくまうれ

同

卯乃花とあうり流ゆきの下葉り那

同

うれとかなゆきの志川く此露の投

同

う花そむくうりさや花の夕月夜

同

う乃はおか山うけまら思月夜うか

同

卯花よの月とそゆきとあうふらん

同

壁

雪うのさとそ卯花ゆ流家り舞つそた

乃とまくとそ卯の花月ふや海ゆく

宗碩

うの花の月よりゆくら冬雲のな

同

うれ花又月ゆきを山を流まうか

同

う乃花とあうりくゆきの一まうさ

同

卯川むのちあふや雪のひとくま

同

うつさうさ雪よりまめく小草り水

同

もろ草下りの花久記乃亦面那

この花と色あは忍せぬ所りりか

うれはかふ木下を海く山踏切那

都るまじき洞えもか所くうつき成

ゆ紀み散あさほゆまし花うつ天

う乃花やけさゆさよひ此葉すの月

う流ろふうう乃花月の海さるりり

されあひぬ初うれ花めあふつをた

う此花の隙う紀かをへくさ所をさ

まもゆくへうの花垣よのさ所をた

う此花やひりりけさまぬあさ月日

う此花と月と志うう心あつ禮切那

つむやうと世を卵花此かをさ久れ

う乃花やなをさ乃うけうう夕うう

本間よりむろうの花や夕月夜

うのこれとゆふる此花乃か面う那

月打ちと雪うりささむる卵月かふ

ちうもころを張う此花のさく流哉

う此とれ乃ほゆやゆさまの朝附月

本居と夕月やうのこれよふれ海

うのけかやふかうと志う想瀧つ浪

う此花のなとにせか海くゆふる水

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

外の花... 宗順

宗順

宗順

宗順

宗順

宗順

宗順

宗順

宗順

宗順

宗順

宗順

う乃花の雪ハあつ様の木此方那
うれけかや雪のミヤ角此もろの庭
同

時鳥

をりしあつハきう思ふあま那公
心敬

初ゆききたとくら此鳥を春日なり
同

竹花名子句の家や卯月かとくきき
香頰

孫うしとやまさけをなうん那公
同

もろき山夕し点ゆり世かとくき守
行助

かとくき守ううあつしきあみ那
同

鄭公雪うの根し句の家や月らう那
家初

蒸青の雪うの根し句の家や月らう那

待よしとあつてやあうん那公
同

終くれて月あそあのみ心不とくき
同

啼しけくあまのよそまら那公
同

あけハあそ名を乃とまけ建那公
同

月入りあけめくまあふよの那公
同

あのみそよすし点一念かとくき守
同

またそあそあうぬ月之あ建那公
同

くもと紙しあうそあう那公
同

子規あつ思えう言そめつらう
同

山いこり若と峯しとのほとくき守
同

新撰
竹林毛へ

かとくき守花をまらう家深山切那
同

うらてらかまゝいぬまに上郭公

まじきぬ初まともかくかともふに

もかや根下りいぬいとありあ子規

年下にまれ乃も心音や花下り郭公

ちきりきやも郭公をそあくら

初まあげ花をりと時を記入り多り

面うけは花みち里そをともきに

琴そやぬちり山いほうかともき守

歎冬とあゝ落のりりなともきに

数れみや時をぬそまほともきに

まのひと残さくいにくも郭公

時人上流流のりり郭公

教とあら人にまゝ家おかともきを

若之さうそつういぬと郭公

まの入り心う人せよりやともきに

まごころも物孫うらゝと世に霍云

思ふぬ残あるそぬらん不ともきを

思ふとは思ふぬよりハ不ともき守

よましくまをまゝいぬやまら入郭公

そりまの圃もて

舟のさころのまろとや千年郭公

まのれ松まの葉ましくみかともきを

まごころもまのいぬもつに郭公

まごころもまのいぬもつに郭公

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

思ふりいゝとも思ひくおほとくき次 同
 まいろうとこと成山およ不とくき次 同
 海とそ守山をころひしほとくき次 同
 とりもあひぬや海とゆりあ子規 同
 人まろむなと一いふそ不とくき次 同
 きうも人一あうゆりせかとくき守 同
 山と成くゆく入つてそ不とくき次 同
 かとくき成聖山をぬる息も切那 同
 おうと成まゝさぬもきうしし郭公 同
 郭公かかきさるさうしる点りなり 同
 喘りつとこをゆきてやきりん郭公 同

孝のゆを初音や手入不とくき守 同
 一季にわんぐやえ成者不とくき次 同
 一季やあひ見く乃ちれかとくき次 同
 二都の今そきて一と不とくき守 同
 らん言さくあうつあゆくよ郭公 同
 又月うの花とりよが世かとくき守 同
 川あうんをのよさうたの郭公 同
 孫かゝ禮そきはふ乃阿やめ郭公 同
 天満交乃命り
 かとくきまらう言やをのう手向山 同
 據列らつりの山れ意うとく

初ゆくき尾 鳴るもつり 此山 踏り 耶 同

海 中 一 圃 まで 同

名 井 上 の 乃 山 と や 志 乃 小 ほと 同

音 羽 山 の ぬ り と 同

音 に き く 山 上 木 す 志 此 不 と 同

耶 公 志 祿 志 だ の 志 又 ち ら 耶 同

横 河 乃 坊 志 同

祿 志 志 人 よ 雲 を 八 主 山 が と 同

耶 公 こ 志 不 同

わ せ り せ よ 雲 の 志 志 や 不 同

志 志 志 や 志 志 志 志 志 志 耶 公 同

志 志 と 志 志 志 志 志 志 志 志 同

月 志 志 志 志 志 志 志 志 耶 公 同

め 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 同

け 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 同

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 同

月 や 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 同

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 同

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 同

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 同

難 波 の 志 志 志 志 志 志 志 志 同

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志 同

尊のま名を重井乃貴重不とくさ守 同

孫富山とて

いとくきぬ山越かさくまを重井の那 同

句の飯君ハくまふれたのし子祝 同

きと抄人と君と尺くくせよ郭公 同

小聖の私會此を乃乃る承之儀 同

會ありて

阿く想た儀く家屋や飯ひと郭公 同

名号此連舞り

名や祀念をくく禮せし初中をさ尾 同

あまのあり古奏うのせかとくきを 同

古奏とてきりいあをあけかたをさ尾 同

まてとてよ刃ハ古奏此かとくさ守 同

あたるせはあまらともなる郭公 同

とをさ圃又思ひあし比

いそあまぬたひとま志家や郭公 同

さうひつとこまやこすくく禮郭公 同

小圃ふくさりし時

あま海あひの風しつけあせ郭公 同

くひこより帰しやり乃ま郭公 同

あつて又初音に人禮をとくきを 同

あつてあまかくすいあ志し郭公 同

山や今人里そまらまかとくきを 同

山の下に月のはらめ子規

まらも何人ぬ宿おとろく世郡公

肖拍

泉列五百とて中一坊一小

まさしーりりわちー此島の霞云

同

まて忘りー深山や初言かときき

同

教う中一人と多よと人ほとくま次

同

ちー丹波ふる里人たーりよ

同

内乃こりゆりおまこ山かくきき

同

標列萱野如林草下庵まて

待人に峯下あえ乃と世不とき次

同

和やこきく志れい孫少のふお山哉

同

法とだらーー二空哉やおもふ鄭公

同

花にきもたわんん初音かときき

同

標列披蓋蓬長庵まて

かきのおもよみらまわつて北野公

同

和やこきく志れい孫少のふお山哉

同

ねちりる包ま山を漈なまふときき

同

河下列送卷あて

たの又月昔の明けのそかときき

同

泊瀬山にやりき

二本乃とききうてふ世よかときき

同

麻肖山北寺まて

山もや海雲れやせう敷かしくき尾 同

山家にまうりり時和漢入り 同

人らり此や海海あとり連郭公 同

独吟よ名号連あしゆいふ 同

かっハ人ク人海もと切郭公 同

又やさうんきうすうかせを郭公 宗長

常のたぬれあすのそれつあ郭公 同

人禮をゆみやうふあうし子規 宗碩

山ひこの勢よるあくや不しくき 同

あそえう連安と古く急ほとくまを 同

郭公まうりりあちさく行を切郭 同

山上西の載——花のあるあうく 同

古勢やそれそううよのふとくまを 同

あふあうやうこらふまわれ郭公 同

灘う又ううよ志乃ひきかしくまを 同

おりのいふ海なく言やよその郭公 同

つあやあうとくふ屋ひんや子規 同

まう家ともあまやハるうき郭公 同

きふそ安深山なうう此不しくき 同

不とくまを名言させ記の本末切郭 宗物

ほとくまを名言させ記の本末切郭 同

年のけか乃所さかうく——切郭公 同

一子息丹波くけおるそかしくき尾 同
初ゆくき尾く息の苑ち家又月かあ 同
志の小者えりふよりわや郭公 同
うけとめよ月さうさ鳴かしくき尾 同
者とこむるこれやひさのぬ郭公 同
かしくき寸かとききのうちと郭 同
爰りさこそ思ひ孫さめれかとくき尾 同
かしく禮月して一とや海の郭公 同
さとあまてわくうとやわり小郭云 同
郭公おももぬなまこれまうひ切郭 同
天乃戸の月やあけくかかとくき尾 同
月や

けさなくやゆめりねかえり郭云 同
答せよよひ十をせりの名かとくき尾 同
郭公つあゆ人そりれ本乃男切郭 同
かしくき尾人傳をぬく息りなり 同
郭公雲下りてきさくそ極とやま切郭 同
かしくき尾月もさうきれくを極哉 同
かとくき尾く息えくう蓋のよ末式 周桂
者もあうそくそりりきりの言れ郭公 同
かしくき尾なひさう人れ山路りれ 同
ほとくき尾まろきりつま夕月水 同
泊く息とあう人やまき初ゆき尾 同

志れきあーや海や雪のたぬ郎公 同

の度くよりわさつうと人そ郎公 同

うさらてのまゝの海やもつ音郎公 同

と急なまの海や妻こあふとくきに 同

けさふあけのぬりくさと郎公 同卦

家碩遊善 同

雲かちまじり山月禮かとくきに 同

りりやゆりふとよとる雪踏郎公 同

係もやゆよしくたの根ふとくきに 同

月村遊善 同

かつうよ城さきうのさめ郎公 同

豊後森ふ郎兵衛対遊字真砂千句 同

まらーゆやふとと一こ急郎公 昌休

拳入りゆふ海まの雪ふよ志き子規 同

永原千句 同

子規のうーしてあゆふあがり郎 同

辰田友を 同

一茶うよまろつハ物クハかとくきを 同

和泉堺まて小泉与二郎兵衛 同

月やう急うこれ妻や海かとくきに 同

進菰山城古 同

かとくき守こ急や夕のまのこれ松 同

永原于句 同

とさすりたりた連うんを山を郭公 同

まのひとをゆく一考そほとくまを 同

宗碩進善十七回于句 同

夕ふそやせりてやかよんを郭公 同

まさゆくとたの折むとら郭公 同

あつうよれ初やたひ孫不とくきに 同

諸し人真切

不とくまを帰らん山路浦はさひ 同

たのうを子句 同

月とりのをあらうもまをたり郭公 同

永原于句 同

まことゆくと葉山志け山不とくき守 同

月入りる連山はを郭公 同

法の来とまをよおり人郭公 宗類

ゆふし人たり人家やとくき子親 同

一考やまをのひとつてほとくき次 同

あく乃人れ阿やとら吉郭公 同

一こま入りるをや之山本かとくきに 同

一こまやまのれ初をれかとくきに 同

やまのあをあらうこれにり郭公 同

まのあらわれ我やと山右初ゆくと 同

一ノ志ノ月や霧かどくき

わぬノ一なるを又月のせうせ

有明のつ連あさつげよ不とくき

ぬやどろこ急乃阿や板やとくき

明小きわあえ一ノ山かどくき

初抄一む花のゆく急あかどくき

一夢やありららのたまかどくき

かひ伯列大山よてよひし

山ノ一せん山を急うゆふ

磯上を急うてよひし

那ノ公あくそろつ孫江もどく

月ゆんの山れん急うてよひし

急あか一み急うてよひし

遊善一回忌

なぐやりの急うてよひし

遊善

あどしてん急あかひおほとく

同

志ノふあより急あかお鄭公

同

同

よ急あか急うてよひし

不とく急あか急うてよひし

一夢やあ急うてよひし

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

紹巴

同

可うしとてうちを移んぬり郭公
かしくきを移う人わさむ門田の
かしくきを移う人わさむ門田の
山と城ししそぬくか建郭公
一ありや月を思を移すとてき
あひ入りあひぬ移れぬそり建郭公
ほしくま次雲路よつまよ我く海
いさむとてう人なんやとり郭公
月花にまのをとりまやとてき守
むくくるや多く言を何こ乃郭公
月をまこてのぬり人里こん郭公

同 同

つよこめれ林うぬかとてき
ある人れ宿をばよきよ不とてき
草す乃度とふ人きくあかとてき
まらありま一葉わらより郭公
ならう人禮有といくと打れ郭公
郭公志さひて乃とせり月和
むくく移り小孫あ世よとり郭公
月やまの月と如移りかとてき
旅小して閑人ゆそかかとてき
たひ人の宿とな志の八かとてき
満中一乃深山やさく思をとてき

同 同

人傳れし急多しあまやかとくまに
り為ありれひとまをうらり郭公
たきてけりうさや初雪かしくまを
初ゆきは山嶺王すゆくまやこ哉
何雨日く山のぬり孫し子親
霍云ゆくまをのれみかま郭
郭公くまのたてのり急りあ
昌比

十三廻遊善

あとししうふあうかおし忍そ郭公
天小恒ゆめいるりやをかしくまに
つまこめさぬるよやならぬ郭公
同

餘り

久人まとき阿やあひさめそ郭公
まこ礼王いぬんくまを井り馬
同

遊善

りのとりあうなくきりあを禮時
そりにく急名くのやきりのし郭公
同

詔巴遊善

かしくきすあまのやきなくあら衣
京より伏見八宿う人れ人雨を
宿う人て宿小もほしく初ゆきまを
玄仍

詔巴遊善

郭公はけりあそくとならりか郭
同

松平甲列真り
かきく山のくひあるりり孫哉
同

夏草

竹友此目を草葉とよみ乃落し
心敬

荒二心乃葉れ予種之志け家夏野か

友草一とけか此秋もを利小なり

新撰 かのくさの雪男もくめ 末葉のれ

志たりぬを透あるや也のくさ葉式

うけ衣家やむさとしけれ水葉うか

さたのわうかハあつ聖乃みとる聖哉

宗後

連歌

久人らをと道あをむすぬ夏野切那
同

むゆ一野ハあ葉れゆハあはれの葉
同

まゆくさを色のうちれ大聖切那
宗碩

友草一をちうを木と急の原聖切那
宗物

旅人海京の法樂

道忘るい志け孫ぬり志都一那
昌休

かのくさにひくさハ雪のふ小松式
宗類

あつ葉に累麻之ここをゆるれ野かふ
紹巴

ふば葉乃志くくび水乃き一孫うれ
同

山晴く聖之あつくさこれ木す急かふ
同

年 ぬともとたてしきけりし葉の糸 同
 ぶつ草下をさうへんりくぬ初入れ 同
 けり水を夜ふさきたのきけく之の那 同
 る秋のむれやなつ乃くそ所の露 同
 かつ葉の雲入り生うす志のりか 同
 かんまをむぬよわくちさりか 同
 ゆきて見えよ志もそあしやむれま 同
 友の目入りわくくさきうのき津へか 同
 かつ葉をさく流れおくる葉のりか 同
 乃くくとせをそなふつをなす 同
 夏草下ハキと夕くまこれまうさか 同
 花の根水ぬけむあわゆるか 同
 かの草下け投りく見れそ末来う那 同
 三乃徑見ゆるよもたの志けりか 同
 乃く細巴進善 同
 志けまけとふ初見えん葉れそ 昌叱

夏月

菘
 水とせ初月とせくるるそあつち
 つみ細し桂や志をわくくせらん
 交く見えぬむくをせし夕月よ

新撰
 竹林毛へ

竹
 竹の葉は月け交家あしうれ

めくりあひぬ月を互の此夏乃そ

明やときき比とやしてしゆふ月よ

誇ちのくまやのみまら此秋守のつゑ

あけてまぬひくりを添りり月よ

夏此秋ハ人此月忍るゆくりりれ

あつ乃秋ハ月やまかると天れ河

ひくりあひ月と玉えのゆふすくみ

月れはる朝燈をやどなはのうと

月や今朔浪トすく一記あ一此満

宵乃まと月やおもりぬなはのそ

よひにめて夜を月まの夜をのなり

明しし夜や月よくや一羨夏れ定

守のの秋夜月りなくさむ朔りか

あつ乃夜此月ハ雪まのむらま切那

けさみきハ月そなりさ秋夜れそ

月よと朔なはのよと志家旅旅りか

露とくきそすく一き月の本此同式

まーり秋とうとぬ月れあ一と式

それり一思いつゑや撞なはのそ

あゝ津野や月をうとくとのうと

よんやあゝん月ゆをぬとん秋りは

宗旅

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

おき崎集 申一巻一

浪やあつた中一に明一そこの月

夜やあつた本乃同天てつつきを野

見たりよの月うけむと八瀧乃いせ

さうぶとる木のる月をむつてかゝ

あつた夜の月はいはく山のまな

夏乃よれ月やみあうとぬりと川

月の中一乃桂をあつ乃うけもな

月よけさむすくそと流ぬ清水切那

月より夜とあまそ月をむつりれ

物き入るそこの月の夜乃そ

すの月ひまよりあつ雲路切那

月よけさむすくそと流ぬ清水切那

月より夜とあまそ月をむつりれ

物き入るそこの月の夜乃そ

すの月ひまよりあつ雲路切那

月よけさむすくそと流ぬ清水切那

月より夜とあまそ月をむつりれ

物き入るそこの月の夜乃そ

すの月ひまよりあつ雲路切那

月よけさむすくそと流ぬ清水切那

月より夜とあまそ月をむつりれ

物き入るそこの月の夜乃そ

すの月ひまよりあつ雲路切那

月よけさむすくそと流ぬ清水切那

月より夜とあまそ月をむつりれ

同 家物

同

同

同

同

同

周桂

同

同

同

同

同

同

同

同

三列より孝須真り

昌休

同

同

同

宗類

同

つるあとのを涼しむ月のとわそのか
ゆきふふと忍び海や夏れそふ乃月
入るそしし涼な候すくしよほの月
すくしうふ月の人やや海流りか
明やとさ月を切きりそある世切那
中しにをを月やすくしきそふ此雲
陰のそ月又月乃木の海けりなり
かろ八月入りこかそつや海を那
そのをれなり老う月のみやこひと
夏れ水乃月やそや海北海さわたり
まくにけり涼ある月りそののそふ
同 同 同 同 同 同 同 同

あまの戸を海を海や夏の秋す乃月
同

詠巴返善

かろの月少りさけみきりよるり
同

如水返善

いとむしをんをくやみん夏の月
同

右波草

忍る人さ月城忘るうあひか那
同

牡丹

露や種そめり者りりり深き草
露をくきそ花やたたく此海み草
同 家物

雲のさやな霞のさほゆ乃少のみま
 同
 けりと冬とらき深や花のぬくさ
 宗類
 北月のまは吹やわり名とわかれくさ
 同
 花の上より朝露はぬくさ草
 紹巴
 くれあひや葉の人をさ人少のさ
 同
 花の色は落しやあはれふかさ
 同

牡丹

壁根やわらふ若くさつたさ松の少ら
 同
 つまよこめく郭公まてり齋つまた
 肖柏
 舟のなぬ花とやわあふりきつたさ
 宗碩

くらさつとく若く海水乃りあきうか
 同
 咲よたり蒸間をのりふくあはれた
 同
 良母はくさやのりてくさつたさ
 周桂

宗碩遊善

かまろそた花の人袖のみきふくれ
 同
 めまあやに水や花よりかきほをた
 昌休
 ひとあはりのや子持乃くさつた
 宗養
 ちけまな花はくさ乃くさつたさ
 同
 くらさつたさわりのくさくさ
 紹巴
 り齋つまたさまを思ふゆりり
 同

葵

菫

美代とくけてそぬきゆあふひ草

ひの小目に露を翫とくあふむかふ

ひうふ目もあふ建をみも乃葵久れ

枯葉もみらるると見よのあふひ式

月のうちれ光やあふむけさ乃つゆ

うけてあふ世こにあふひの二葉式

葛蒲

菫

常一にひらる彩をわらうししあやめ草

新撰竹

壁

のさのあふり又水こゆる葛蒲かふ

あふ乃とや根を思あまわれ葛蒲草

あつ思れあやめをかぬみきん式

葵の色に雨をぬかぬ乃ささるか

君し引い袖の若なるへあやめ草

今宵去くあやめを膝れり孫久れ

翔目とあふり小北軒のあやめ草

蓬もをりあふり小北のあやめ久れ

のさげ眼ふりとうりあやめうか

花うけを分ぬにうりあやめ切那

ひまあつうあやめあはみきん式

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

同 宗孫

の里海くろ孫よあよ白ふあやめ哉 同

あは又月あやめをあを乃くあを哉 宗碩

ちきりきやよもさう文のあやめ哉 宗物

ひまあふへのあやわわあやめ哉 同

あふ月やあやめあやめあやめ哉 同

あやめ草すくろ孫乃あはつ戸乃那 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

あは又月六日一回遊善あをを十甲白 同

人ま孫よ小家としきししあやめ式
 ひまろとせふ少兒そる心何やめま
 あのみやの粒あまりあるあやめ式
 同
同
同
同
同
同
同
同

草苗

ゆさおなる年ととていそくさ苗式
 早苗より名さうふ山此いりそく久粒
 うぬ青くわさ家さ苗乃と急葉切那
 ささやうそ聖山のろそふさ苗う那
 むへにいて民のあささ家す里切那
 う綴や秋さなるふそよそ思れまう
 同
同
同
同
同
同
同
同

ともしきよ露とまらとくるさる人式
 若なりと又なる田子乃のすそうあ
 竹乃葉もわさ苗るひを門たう那
 子苗ぬぬりといたさのとやぬうあ
 うんのか家さとをそそ乃山た哉
 文彦田よ想ささそやり何人想さ苗式
 う少家あぬぬにあひくやあさのそ
 あをやみんう少家さ苗乃すあ乃秋
 秋う綴れぬもけけよくさ苗うれ
 うあるたあ秋う綴れそけれう此松
 う急乃色と若なり何そよぬあ切那
 同
同
同
同
同
同
同
同
同
同

より門の入江せにりあるさ苗う那 宗碩

やほふりの秋と水けりさなへかふ 同

たりとそと志け家柳の門たくれ 同

ちよおそ秋まのむあれまき田うか 宗物

言柳の風のう人きうくとたう那 同

う人乃とに門たれあまの移手うか 同

田上や赤引をそぬさなへか柳 同

風あけいとほり浪さす所あへか 同

ううらうら秋とやうてはたや守 周桂

あさみとる星露と種なる所なへくれ 昌休

秋残先そよくうけたのさるへかふ 同

う人わさと申しにうけまき苗くれ 同

う人のか家田面い山れおくてうか 同

朝ほゆれ末葉よあま家さなへくれ 紹巴

う小家さふわう建て水の初そ江哉 同

さな人と秋灯色やぬれみとる星切那 同

月を霜そとひつらあのみさなへうか 同

芦乃葉入りひう苗登よく入えうか 同

秋う幾減う入てりりてのみさ苗切那 同

玉平この道にとりううらるた草うか 同

初めうをり徳や新河小田北をり 同

草ととるしやうさなへ切那 同

うへわさ後門因はくさきはくま共 同

水築をすえわうかへのみまの切那 同

志河うあむあとむく苗の末葉の那 同

立かきんあう北きうあうさ苗切那 同

平の山乃あうひかきぬうとたう那 同

一すち北さかへをすう乃切え切那 同

うさうあはれいさとの内ゆ人田あは 同

田窓をたさかろふちあしし秋乃色 同

うあ依たまひり水さそか大井川 同

いけ水ハ四方乃さな人北根うー水 同

母く苗をひらみやりのすえ葉うあ 同

生りひくうへーハあう思早苗う那 昌叱

夏刈れゆへ生あけうさる人う那 同

秋のらううさるうるん田西切那 玄仍

青梅

青梅乃葉かとりあけ北りのふくれ 紹巴

又月雨

春雨に少休と云月ぬ乃も凡間うか
心敬

雨焉一々云月のくを此世くく一々
同

をみちせを云月を雨より本その為
考頌

雨を云連乃ぬら海かなる晴るうか
賢盛

竹なるぬ此脚乃いと云云又月切那
行助

夏引のいとくりう人云あ雨哉
同

菟又月ぬ乃あささとい所一伏見や海
同

又月雨ハ水たきそく乃若くそあ
同

新撰 又月ぬを雲乃なることより云
同

園 春秋此中「河」云く云あうめう那
同

何あまうくそくにあまうあ云月云
同

雨あうく有利てもり云ぬ云月うか
同

一秋あを云けぬうぬのあさうすを
同

又月ぬや云あ雲り云思のさ海やま
同

り云間あう庭ハ又月雨乃柳うれ
同

雨を云連ハ庭ふ云とや海季のな
同

雨や川か雨さ云と云乃宅此々を
宗旅

下海ゆをさ見た連うまの柳うか
同

降やう云又月をああ此月うす切那
同

雲居すハあまう雲さびさ又月うれ
同

さみな連ハ志和風雲ういそ此松
同

又月ぬハ雨冬塩于乃雨さうくぬ
同

何思さまふや井の山に伊勢山
さみこを山に水に下りし乃乃
又月ぬり林に雨さく坂屋の那
さみこまは霧のちちりう雲り
さ見取をわくの雲水に乃那
雲さえてさみたまうそを風り
何さまふ山さあまて雲を水
さまこま乃雲立打波家阿さ目切那
さみたをハ晴て色ゆくあの子急
さみたまの山雲すくあまつ風
何さまを庭や深山のたき乃奈又

さみこまを庭や深山のたき乃奈又

掉山や又月ぬれを乃とあま
又月ぬれを志つ冬に拙法に海山
又月ぬれりあひをぬ水に
志不まきやややの山さま北峯の雲
ぬれを花入りうろふ又月切那
さみこを禮やれやう浪まのいその松
何みたまやとりんまて乃笠宿里
さみこまは山路うそみゆ貴式
何やう小山を出湯にさつあ切那
又月兩や子為の目くす乃竹
又月ぬれの見きふやあまつそ

肖柏

同

同

宗碩

同

宗牧

同

同

周桂

同

同

ぬとせりーとさゝ家民のさつあて 同

さみこまー露のうけひる子為りか 同

あゝ後ある又月雨のくう切さ宿里 同

所忍る様や勝つさかま木ゆは乃松 同

さみたまの雲にならそんはうそ八哉 昌休

さか南都ーとく 同

所とさまのうか北川門を雲井式 同

さくさまをきくゆふまこれ雲井哉 同

和泉守護劍所守白 同

さ息さまの都ーを往來や海ち入れ 同

さこれまは少ー乃寸そ乃く雲の都 宗類

又月雨をくまやうさー海小はれ満 同

朝ほゆれさみこまやれさ妻もなり 同

所忍る様や雲さう人さう山田うか 同

それ海をさぬ乃まありやさ月屋さ 同

又月雨ハ河門崎ありぬ本ささ野 紹巴

さみた様をとを山と水乃根さー哉 同

所とさまの晴ても母こ家河ハうか 同

又月雨ハ松北う人こす水草さうれ 同

さくさまの夜の夜切さき朝戸切那 同

さ息さまをと城山ちうか雲海うか 同

所とさまのそまを本さー川柳 同

又月ぬを又道加ゆ川」を切那」
所み所建をりくつありまふ磯北松
又月ぬをありくつありまふらり那
所之さまを洞を入を此こす急りれ
さみと禮ハさそか浦一處を北さの
さそにまは庭やらまさ入一大井所
さみとまは庭やらまさ入一大井所
さそを所らりる得をさし一處かふ
五月雨ハ雪わやあひらぬりとりん
さそれの所ありそりくふゆふれ遊
又月ぬれ少候よりを漏あつまう那
又月ぬれ少候よりを漏あつまう那

所とさまや松乃末と急り一湊少の
又月ぬのさ所人守方北ぬりとりん
又月雨や那のうらまそすく川
さ見とまを川上や雪もみはく川
又月雨をいとりぬまき北板屋那
さそとまの雲やぬりとり一峰の月
さそとま北ふありや仲とり一かと海
所とさまハ淵深をわ、思深若くれ
さみた禮を夫の岩戸北むくりか
所見と禮ハ源ありさなるま切那
又月ぬを于滔やなみ乃ゆをた禮

同 同

又月ぬは河の上をなくととひ野
同

又月ぬをみやこも浪れうき孫の那
同

誰をささみくまのうりそくを乃上
同

又月ぬハきくさあうそ浪れく忍代
同

さそれをやぬと浪れう思入江之れ
昌叱

於麻月く
同

所之さまを八十世之浪のあひ禮哉
同

壬五月
同

所てふふわさるるを乃さ月哉
同

さみく禮を忘ふいとあう思入江之
同

越前夜真ゆ
同

又月雨ハきくわさ浪れ乃都切那
玄仍

又月ぬ北月うすさあひをそく哉
同

又月雨ハやきりそあうぬうやこ哉
同

又月ぬを雲井にづくそ末切那
同

又月雨ハきくわさ浪れ乃都切那
同

又月ぬハきくわさ浪れ乃都切那
同

又月ぬハきくわさ浪れ乃都切那
同

梅雨

これより夕りより小風吹梅乃あめ
宗牧

ぬまをたけら契りかうけ梅のぬ
同

まかハ雲やこハ阿やな一梅の阿め
菫乃こり少連こりろそふひめ乃ぬ
白人所ハ下葉りろほくひめれ阿免
同 昌休 紹巴

標

さけこ背の水面もひろあふらうれ
ぬ月か小本す急雲ゆる阿ふらかふ
ひ免とう幾傳くまぬあふらうお
露のりろを一本ゆ人の阿ふら切那
ほゆ行らてあさう幾あふら標う那
下ゆゆをまよいら出れあふらうお
同 宗旅

らきき人年し入り阿ふられ花の位
名をあらうし阿ふらるるある花は位
な月まふす又まらうきゆ少ち切那
夜ありをちよあふられをそこうか
下つゆとすそらふらまほ雨ふらう
朝戸あけてせれ雲わ家あふらうれ
同 宗碩
うげ少むや法にわふらの花はあは
色又世ハ思ゆ新雲井家あふら切那
さひをせいらを所人わらに標うれ
同 宗牧
阿とこまのをも一本れあふらう那
同

こぼりさた神乃白ひみあふらうれ
雲とけりる祀念れけかのあふら切那
雨や花をりくゆあけりあふらうか
けかそやとくけり一樹うね
思はきあう思うけ雲白ふあふらう
風あけそ本れ海雲りあふらう那
花をこれこれと名跡れあぬちうれ
あふらあく花れ本末やくも乃えさ
山りとの冬色み水けりあふらうか
夜あけは家た地あまに又あふらう那
花みよと根本に乃とけあふらうか

周桂

同

昌休

同

宗養

同

紹巴

同

同

同

蟬

聲蟬乃らやのいそかあつてふ夜うろを
し急ぎのき本と急ハ蟬ハ葉山うか
せその羽をり月れあもさ程う那
蟬の葉りりうり吹かせう川の風
せこれし急羽るるさうさりり式
本間を海ゆふ月やあくれせこの愛
し急やなみ本末さううせこの此松
夏乃月と本の中ふせこれ葉山切那
せみのあうむるさこのあ夕日哉
あまにひくき浪もやううせと昔川

宗祇

肖柏

宗碩

宗牧

同

昌休

同

宗類

世みのあう木くに動くう幾日なり
木はけしりうそ何人世みのえん山式
ぬい河こきこハクノうろ世みの教
いそ乃浪うの世も貝やまろ此う急
て世みの世とねと海う次啼う急哉
そき介れううとんるてふ世と急哉

紹巴追善

同
同
同
紹巴
同
昌叱
玄仍

百合草

菟草寸闇まどをし火あきやさゆり花

菟草寸闇まどをし火あきやさゆり花

宗祇

花よりうぬとくこと花乃何ゆ可哉
打うて見え露ひめゆりあさ投うか
花乃若れゆりそふぬ落り風日影

宗祇
宗祇
周桂

梔子

新撰
らちなりの花ありを此あるよ哉

蒲

若も三々く加のみあまり此葉繁茂
それ乃若れかろくう一汀つあまの
芦分入一あつあるそか乃末葉切那

宗祇
宗祇
宗祇

花名清と柳よりえさ乃より月ひり那
花香つ思如月之清くひり海へりか
咲て花わつみいさそふ思きんか那
花の清とわつ思えそひりあし海式
同 紹巴

苦竹

竹林

志け花竹清く此こくを此菌の竹
こや一生にんよゆつまそ乃く竹
今年すせいみかあふよけ此林の那
今年一生乃竹おもあふちよ乃法
若くけ此生のか海す志やらよの坂
同 宗祇

と年一生も竹清くや西海を乃たけ
子代に芽をこや一生そふ志乃くけ
よ成をくにく海やさけのわら縁
さひまよとさけもあふしは苦葉式
巻うらぬたけあそつかむ若葉うね
まら門とさけをひらうわら葉式
今年一生と思ふ志たけや世と乃互
朝清ゆを志と思た志のよ葉うか
一すしに子代や若葉此そのたも
わら松にゆひそふ竹やちよめそ此
月くけとく葉や若葉此まとのさけ
同 宗祇

あふ竹下此さ枝や代ふのみみとる星 周桂

花ぬ聖右京新寔すくぬのまは 同

少る世と如おひひわらほの周此竹 昌休

江列百と三良在衆門松さけ枝 同

夏越み見り苗月そさ落とへん 同

松に竹みとる星わら衆とすりる切那 同

二階なとある雨すくぬまは 同

あへはく生のか家なけや家のだる 同

酒ある衆もてすくぬのすくぬ 同

わらゆてふあけ此衆くぬ衆家路就 同

祈禱す白よとらぬまは 同

あふ竹下此をの禮にまけと若葉哉 同

今年生や貴世ありけのまはけ 同

今年生乃さけ所人松以上衆うか 同

こゆ生や風とうとぬそへく竹 昭巴

わら衆そりん根ぬりそ乃くたけ 同

冬はよしありともあつや門のまは 同

まくなるは衆里またりそ乃さけ 同

麻の中乃蓬毛りのう燈のくたる 同

雨晴ととくなるたけ乃わら衆う那 同

さけ此衆や音きぬわら此よはの雨 同

手為ある陰刃とそむらわら葉うあ 同

こゆー生をいぢあぢかぢ也蘭此竹 同

去年ハ花ひーたけハと云此下投式 同

予尋ゆるけあけきあぢ人門の松 同

幸一くに予世そふけ乃吾家哉 昌叱

今幸生此けやよこと心園のたけ 同

松に少依とーとまらたあ乃砌久那 同

東福寺友長老とく和漢ハハハ 同

こゆー生やよくれけら友家乃け 同

今幸紹巴追善ハハハハハハハハハ 同

わくさけハきあーと志家始ハハ 玄仍

園交母一乃むるま一秋乃教之切那

ゆ巻にえー螢けなまあま目り那 宗祇

あつハあまかうらや海との雪の枝 同

法外の家かた家やわー火さかど風 同

ひく所あにむるまましき螢うあ 肖柏

風にみま建浪承よりりのかうら哉 宗祇

あるをきええぬハうすそふ螢う那 同

とふ不うら下ぬく苔のいつ湯切那 同

遊善ハハ

あつ虫一りきえうー玉をカんる世式 周桂

龍雲わうへ海さま此ひくり切那 同

ゆりかきく雲井にさび人々月夜
朝露にむりりとしふ此を多るうか
昌休

永原寸句

ゆくみにくけとほくこの不きう式
風見きてほるふを思ひまあへ哉
宗養
まよ禮よと月を色移りよ不くる式
同
ひそくぬれ屋との現あとも不た家
同
そらに月夜入りし月三の不た家哉
同
とふかた家ぬれぬすらぬ星もな
同
とぬ不さる秋も水菜乃也と里う肌
紹巴
雲入りとふかきうる色水のみきふ式
同

風のはく光とや海とにとも不きう

夕る善原にうりれぬか多るう肌
同
河うの野やむらひ火あうし飛螢
同
とふはた家ぬれぬと落く光り切那
同
う飛あけを神よ川くぬあ不くる哉
同
風とつとと思ひぬうとこれほるう哉
同
天うけ家玉う塔江トトとふ不た家
同
天津そよ此露やりためて飛不た家
同
何くて不よ言てい海とに入得さう
同
種一垣乃うく里やそら不いとぬ雲
同
葉の原とぬとをうひわかううう肌
同

中一過と云水江よて

同

わいの庭にまは乃とそそく水鶏哉

肖柏

あさいはと月二宿とふくわがく和

同

くのふかく月やそこの門やむきくけ

宗碩

若くしく水すいとそあふく井家式

同

く井お鳴月やあまわけ河原系々楼

同

桔井をやくわなふおけけさ乃ぬ

同

冬井お鳴和いふあゆ孫井朝こりか

宗物

わけくさそあま井川との水鶏く和

同

す禮に鳴く和れとさく思く井お哉

同

く念たえぬくわがのと山長中りか

同

あくくさ山とあめむれそわおりか

宗類

さきと今松のとはそれくおお切那

同

わけなうく月入る窓のくおふりか

同

天乃とそあとおく念ある水雞切那

宗巴

くのありや先むられとの清れいそ

同

水室

神やそ家夜成時なるくわりうか

宗祿

かハあつ何とそや少ゆの氷室やぬ

同

みくく踏や都りあくをいむろ山

同

水さむき山原むむろ乃おあり切那

同

夕小忍るやゆり思えひむろ岑乃雪
宗碩
周桂

雪巴真ゆり
昌休
宗類

あともやきふ氷室を海山の月木たち
阿さり乃く幾や日家人むむろ山
宗類

や月急さあさり乃く幾やひむろ山
本乃海の海月けいく八むむろ山
同

あさやゆり小妻を阿あささ氷室山
乃く幾や先あさ海もとく家氷むろ山
同

う幾く八家そくや開乃氷むろ山
三の急しそあふ三のくくひむろ山
同

来ぬ秋乃氷室下書し来法入那
をの所くあさりの雪やひむろ山
玄仍

海松

山松の夕けやうき思ふあつものう
宗旅

吹来ぬとんるあささし沖津うせ
岸拍

涼し海やちりち此思ふめま介此満
わくくろふひろふくひ有満松め哉
宗碩

志海やきふ思海め吹くく伊さつ臥
あさみくろ思け海やんるめ夏の満
周桂
昌休

わさ積此切河しあふてもみ家め水
たふふと終にふふ世乃海松め水
川浪乃米兼やみ家め水
列平以と見極めや塩此と浅ひく
宗類 紹巴 同 昌比

夕立

竹

夕立のさうハ蹴殿をくぬやせを那
雲さうえてゆふさうにふまあつ乃面
白雨入りあふれをれ夕りあつ乃面
昔のさとに先夕立そあまつくも
あめいつくまあ方を夕立の雲
宗祇 心敬 同 同 同

白雨乃ほゆふさひまへく飛乃まろ
夕立と来草下りくく世あまの雲
白雨より見ゆる草下木れあつ乃
白雨やあえししゆそなまの川の
越中一箇より
同 同 同 同 同

白雨此新川あつのせらまう切那
栗田のふやうり
ゆふならみあを昔あ山のあつま
白雨をそ記乃兼志路
吹ひく人と浅つゆふさう松のく飛
白雨れあう海すしひく
同 同 同 同 同

同 同 同 同 同
同 同 同 同 同
同 同 同 同 同
同 同 同 同 同
同 同 同 同 同

さく乃集入一又立志行深山の那

宗物

ぬ連しくとあるや夕人立すくら山

同

ぬさ北ゆふくらむら北中一海久帆

同

白ぬいぬまて本草一北海ゆとなす

同

月そら海ゆふさらすくしむく一そ

同

ゆり雲やゆりを移ふ立けさ乃そら

周桂

白ぬやあきの不乾やま乃さ山くせ

昌休

白の 白濁水寺す白

同

雨ゆく世ゆふ寺あふりく河原風

同

水無月をいばく夕人立りり風

宗養

夕人立ら乃落とことあ照日夕風

同

白雨をあふきにふりふり集も下

紹巴

夕人立やあくらくを切く乾庭乃ま川

同

ゆは草すい白ぬれあとのさ苗う那

同

白雨をまふ月ぬの雲井一うか

同

江乃く急をそり夕寺あ雲る那

同

志不の集やゆふくらむら北うを

同

白ぬれ乃ち激やたさたきのい急

同

うきり一と流くや夕く天湊そら

同

白ぬり一うさ古すぬみらり那

同

夕人立ら乃急の集ふ乃末す急うか

同

白雨入りみあさり杉と流折も切那

同

ゆふまはれまゝくしふ雲やを流さくれ
夕人ま乃すくおちぬ建忍社もなす
夕まのなりまをくおれみちひうか
ゆふらちれそくす水ゆく雲海式
将ふらりやそくすに水まくおひう風
白ぬやうそぬひてそくすみかとう霞
吹こせをなそくすやゆふそくすみなと風
夕ららそくすより庭入りしそくすお那

末摘花

麻

そくすなるとしかたらく流る櫛あさ
まき一樹よらみか麻のよもふうれ

榎子

新撰竹
あま
小松あひなてしてさけおのをが式
榎子乃あさうかきうけかたはゆ
榎子一雪しぬうつてまよさこくれ
あてしこれおひさ記まき岩が切那
あのみちふ花や榎子乃まゆこそわ

同

同

同

昌叱

同

同

同

玄竹

昌叱

宗祇

同

宗祇

同

同

肖拍

かくしつらめよせうしんたき岩が哉
 宗願
 なるしみやうたぐまふの夕附月
 昌休
 きてしつれ種とていそく岩が哉
 宗養
 此うそ志まさをあてしつらめが此首
 紹巴
 かくしつらめのおひ年しある名跡式
 昌
 なるしつらの岩がよあうて天津うて
 昌叱

紹巴遊善

とくめまををあてしつらの垣不式
玄仍

石竹

これそさくみんくこけしを石竹

宗

来ゆく世岩のこまのいのの
 同
 岩がおも花ゆくよあふりたは
 昌
 志さ露乃ふぬあきよりいし乃あけ
 宗牧
 松やゆき苦むをさく控石のさけ
 周桂
 のあにまんほゆを白玉の乃さけ
 昌休
 露とあもこわらや子引のいの竹
 宗養
 かつ冬れ見掉乃飛りいしれさけ
 同
 花ゆぬ草一本もある減石乃さけ
 同
 白人は也苑さん者ゆへいしれさけ
 昌
 種しあまや年よ生そふり乃竹
 紹巴
 岩がとをけるやと減山いしれさけ
 昌

花とさへあくやみきりれいしれ竹 同

常夏

とこすのふ咲やりのなな花のた子 宗祇

袖すしち襟とこあつりしな花れ露 同

常夏入りしけふ持まけむか乃在 同

床あつにまかへしとほの花れた子 同

常夏入りぬるけふりし朝ししを 宗碩

床すのを名とさへもれ乃手入切那 宗物

床おほをけしれきそりん花をなす 同

常夏入り思ふやち縁へんふれ也と 同

床ゆをと朝常夏みんりらりは 昌休

陰ふりしよやとこ夏入りそあま松 宗養

親なりしふととこあつ乃こりとし 紹巴

親なりしふととこあつ乃こりとし 玄仍

夕類

夕かかぬし川やそ記うさり青絲水 肖柏

ゆふりか乃まれおさまりやうぬ簾 宗物

花といふ名残ゆふ切初の色者うか 宗類

夕しりかや入目をまうと思花のつゆ 同

それなううう志ありしかけの芭切那 同

夕のありのありしゆり 交垣孫次 同
ゆふあふれそらめを月の影のむらさき 新巴

蓮

下水よりみこぬ池のそらせりあ
くらと繁ハ比由りりあは鏡の影
露とくさふ月ひとととの葉風哉 同
君をさへみゆり君はまよふ蓮う那 同
江乃く色もみれふや蓮うぬととま 同
蓮葉の汀入りうらむびありひ切那 同
あはれ玉下り露もややけくあはら蓮水 同

志く玉の露こくふまみくらちせりあ
思ふ人の清乃えりさくそらに哉 宗碩
いじとりのあままひとつ蓮うか 宗牧
そと清と根ゆ人かまぬりちに切那 周桂

大深稱名寺よりるふを

風よまきく露を散ちかゆりちりか 昌休
花に葉入り志のく汀のそらせ切那 同
みこ露ぬとりのけらる露の蓮うか 同
清ゆ落く露の君あもさそらにけり 宗類
玉と月ひまきぬへま露乃そらに切那 同
うかあてふ風の君よあふらにけり 同

露か降り月ハくがゆくはらけりか
風の上乃此也をくらすれ立敷りか
露とおも三月之ぬまりぬをらけり
涼くさ紙ややうんぼゆ乃はらけり
風ふけいつゆ色まさほのをらすり
うけハ氷の立えもる風の浮敷り那
をらす葉乃此ゆにうさけりるるる
大垣法華坊池の蓮花ゆりり
いとくきくあはれ此をくらけり

扇

月乃りて霞みきハ此にけり扇

宗張

秋まきこあふきくうを乃風の影
風まきこて扇トリそよけりさのう
秋入りあけ扇あまき家あきれり
月とみハ何ふきを風乃むくうか
たのなれハあふきそ月にあまつ風
うそあれハ扇トリかをまきそ乃月
月と月と扇入りあふきふたのうか
けさ色まんあふきそ各あきり月
そよにけさ何ふきと海なふ月之式
月とけさこりこにう人正扇切飛
風なうう雪張うてなるあふきり那

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

不月としてふらふを雪此あふ芽哉 同
 風吹の思世よりても也正所あき哉 心
 心あひ乃うせれ若よりふあふふ哉 同
 うりかくてあふきうようはき夕月哉 同
 そての上は目をうもをせのあき哉 同
 ころ袖をうすりのよりあふあき哉 同
 うを物此出れ喜に志あゆあふあき哉 同
 それあふ思山もあふ記の繪端り此 同
 思あへ露あふきをとり終てくみ 同
 あふきとをとけちや露此朝すくそ 同
 秋久撥も袖よりうらくあふきあ那 同
 天津うてう人をやあふきけさ乃月 同
 永正十一年七月十一月夢中あ 同
 田あ白きあふきあ風やあ一た海一 同
 けさの月山乃もあふぬああきく如 宗碩
 志くま一とああ切う一のあふあ哉 同
 花あひ月ひ月あてう月此扇久此 同
 なうててふ朝久撥志あきああき哉 月
 花の香残うてにうは一のああき哉 家牧
 ちふにああふ風とあうるああき哉 同
 蝶乃を此そてもりあああああき哉 同

標列三宅稱教寺梵阿弦ひ

天津うてう人をやあふきけさ乃月 同
 永正十一年七月十一月夢中あ 同
 田あ白きあふきあ風やあ一た海一 同
 けさの月山乃もあふぬああきく如 宗碩
 志くま一とああ切う一のあふあ哉 同
 花あひ月ひ月あてう月此扇久此 同
 なうててふ朝久撥志あきああき哉 月
 花の香残うてにうは一のああき哉 家牧
 ちふにああふ風とあうるああき哉 同
 蝶乃を此そてもりあああああき哉 同

とげを月と連を書りくあふふ切那
同

そらにう散あけハうこくぬ扇うか
同

わくく吹ゆをわふふの雲井一哉
周桂

秋の散ハ切くひちをさのあきくれ
同

風乃のり雲井一見ゆるあふふ哉
同

時ありて吹く散さこのあふきう那
同

そらあ白ふくせとあふ切の切急
同

ひくくく小月雲ま縁くあふふ切那
同

白ひ来想あふさやたよりあまつ風
同

月あむくふそらをわを扇うか
同

能祐在あうく伊勢乃人真切
同

夏江のあをう散れくは乃扇うれ
昌休

山一人散あまとい一舎
同

風より雲あそくふちちあふふ哉
同

千白
同

ちうくくあ秋ふとくまあふき
同

あうく色入り風をそむる扇う那
宗類

あふあゆ人ときさあう風乃か不里哉
同

月なうく山乃をくぬあふきうか
同

山と縁とつあまの羽切那
同

あふくけあ花さ人より扇うか
同

校とく散あうあぬわうあふき
同

ゆ貴にうあ風は色あるあふき
同

同

夏やあはれのすくもく飛來峯乃ま門 同

秋はあけの松やそと成きまきの松 同

あつやたき雪にすくまきたよ乃交 同

たきみの雪雲よすく一紀こやふく終 同

はくしさと水にゆとめ思お山より 同

雪江を水おすくまきこやぬくあ 同

山よりさうこつてゆくし若根松 同

岩介よりくさ巻でびくしゆく終水 同

まつ風よりちさつて涼ゆを終水 同

大神交法樂乃すお入り 同

のひそ列ゆふ海をくし柳よりけ 同

西の川ゆふ海をくし柳よりけ 同

名をよみし法さみきをしれ玉よりを 同

極訪乃法樂よ 同

法涼持りくとのさ此より乃法ゆ 同

伊勢方圃小松原なる人乃おをよ 同

うけ涼一た涼末さうりまことまるりく 同

なき所の思乃巻よて 同

うきのか家川風をくしれりの松 同

越後圃よりゆあろ 同

わけやまのゆ青とけ乃あきまきみ 同

雪小浪よりりそすくししあこれ満 同

満を建て山より飛涼し海よのま 同

法す〜〜今か〜の三山きんのか 同

ひえ乃山よて 同

法す〜〜峯北を記し〜のその松 同

かけ涼し山〜〜さな谷彩の〜 同

かけ涼〜〜かけ玉彦乃さを産れ〜 同

上野岡文屋總秀館〜

かけす〜〜ひ〜山風のやせれ松 同

かけす〜〜秋をあさぬあふぬとの松 同

霧す〜〜しう霞ハひ〜ある玉をたき 同

や〜〜これねり〜と〜み風の明〜 同

山とあはの約夕す〜〜く霞をな〜 同

涼〜〜映よりた〜〜まの〜 同

風や見ぬあ〜法れま〜乃下す〜見 同

正〜〜さを風山〜想よのあ〜法哉 同

朝涼〜〜てやま風のこ〜け切飛〜 同

ほゆ〜〜りれ木北下山乃阿さす〜み 同

むす〜〜八露さ〜〜分ぬうて北あ〜涼見 同

秋や〜〜んく霞を〜〜ふけあさ涼〜 同

月夜〜〜さ〜秋と〜〜兒こ世松の〜霞 同

雨〜〜〜〜雲北ああ〜や秋乃〜せ 同

松よ〜〜げさこぬあさ〜〜けあ〜〜哉 同

井〜〜色乃わ〜〜り〜 同

袖の上はたまた水すくし井てのさと 宵柏

羽ありを波るの世よとくし天津風 同

雨も夜原正孫亭もて 同

乃と花月うつり此うけの羽すくみ 同

林牙標列原乃山中一平え信館りく 同

ふうぬ回とまろり初とすくし之山風 同

寺里乃象母子らる連ぬ秋や下すくみ 同

同 住右社法樂トナ 同

了急かえ以松北繁とくし真津浪 同

同 山右乃人の舎よ 同

同 風も露をぬりてとくし 同

同 山よりやと流るる水も 同

同 波なるぬくけや山まの志とくし 同

同 海一さやけふらん人乃まろのう波 同

同 山乃を也あくはあ望めれ下とくし 同

同 たきの波えんやとすくし 同

同 雪乃とりのきをれを意の下とくし 同

同 海一市やあうりの投れあさくし 同

同 水も満ちてく 同

同 女むめいのあさ言すくし 同

同 けや涼しおさぬまろよめく波の松 同

同 引う人てまのよ程やを下すくし 同

同 同

八雲寄る文井取涼しあまのうき

それとくや思ひくしくまゝし花の露 家牧

涼し雨のたぐひさうかたむくる星

水正しくし夕涼のそよ風の舞うく見

うそや花柳のゆきく此志とまゝく

すくし雨の月よりうひの初戸く

月もすくしけいけい志家さ八重櫛

あまの空とそよ川が静けり一宿乃松

あまのしとくやゆきこれうなる松花雪

明想まや天乃とやふれまゝくみ

又か吹りぬる花の影のけしき

まのし雨や山乃や雨りと村くは

さうに又まらや朝日けゆふすくみ

目やゆり小そとむけ乃志とまゝく

涼しとくあまはせりくる家乃うき

おんく照月おひりくく夏の日

目とくくこれすく吹草乃雨く

天海交りく

神風をそあまはせりく一庭の松

神風をそあまはせりく一庭の松

神風をそあまはせりく一庭の松

神風をそあまはせりく一庭の松

神風をそあまはせりく一庭の松

神風をそあまはせりく一庭の松

神風をそあまはせりく一庭の松

同 周桂

同 家牧

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

不月衣切さ移ん所と此中なる那
やせうく此の川けさふの川の
峰乃をく了急乃とこの山の深山
涼しさの花なる夜れ本へけ切那
山の霞やうきひひをふわつ此油
山の思くまぬきすくく水乃交
神入り所入りるしを涼し深つたひ
夕の附月所をくおすくしを此松
ひりの根此ゆえやあもくけ名の海
山雲乃あけくさすくしゆそらま山
山のぬれ夜引くくししたき此い
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

河川風やこ思秋あひのほやあさくか
橋乃う人をと成くそちりく杖乃風
山へけてのがふ激すくし海原く霞
陰ふまでひんあまひくく川柳
うけ涼しし月やあり江乃玉くくを
散うせ思花や涼しきく霞れまの
川く霞れあ連来て涼し何くまた連
涼しし所へあひの連てたえぬ汀くれ
涼しさのあひの程志くくむやおさき哉
まくく一所とま孫く代志くく玉の庭
と成山とまれ入てすくし玉をま連
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

宗類
綴也

法をくくみらるるれりや庭の松
家くくのまへみすくくまあのみま
ゆふ風乃すくくさほくじりり
涼しさやう人てあのみる宿れ松
大うまれまらしさいあみきま
すくくしあや雨とりよふま時つ風
とよ人みいりかまそふたれり
すくくしあやかくくくふりり
すくくしさ残あつ海のみまこれ
庭やあふを涼しりるなんぞ人乃松
まらしあは海くくれ満り松の
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

涼くくくくくくくくくくくく
まら涼くくくくくくくくくく
涼くくくくくくくくくくくく
まらくくくくくくくくくくく
ゆくうそまら涼くくくくくく
あのみ目やくけたのまら海流山
涼しさやまらあつあつ風
すくくくくくくくくくくく
まらくくくくくくくくくくく
まらくくくくくくくくくくく
まらくくくくくくくくくくく
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

まじし所と神まじくふ草一も哉
涼一さ色戸所一せぬ世れめく見式
涼一とされりせやむとくくあ月衣
中りともぬく幾かを神乃々ノ涼三
恒古舎亦并真發白卷及秀頼云
法能代
まじし所の松をいくよの下すくみ
昌琢真ゆり
同

遊臥下り夜あにをれうつろ切那
夕夕幾江とくしさつろふ々との上
心前
同

あつしとみすくしきとさくみ候か
あつしと風たえてと候本候りあ
同

泉

新撰

兼 壁

よふましくめ月をいりみ乃々ノ涼三
あく乃くれうてあ流うらに泉くれ
夜をきくあきいうのへ候い流と代
下はゆ乃つもろやい之在れま川
うけりせくしとやわくま川の委
本々にひくさ雲みまき候泉り那
本間より浪とり花とふい見切那
そとまきてくぬまくあは乃泉り那
秋とあけ月をいりまの夕河
同 同 同 同 同 同 同 同

巖崎りく

浦志不いあむ大うと此の流るか

泉河乃をよそく

ひそへひとあ運や公此い津を川

あー水と云あま

あまらるせうけをいつと此玉抄

同ふけの海入玉ちる河みう那

笑列波依首よそ

石ち一版の河之也うたなく流乃よそ

わさばらやけみいつと乃流乃松

志色さやふつあやの河これいと拍

松の色と雪入りみ流の河

志あ玉志の月をむびつ流み切那

月やひそふそらによそ心泉うれ

海なく引とよそこの玉此の河

山松色うらくよそその河みう那

さく流りよそ此の泉乃あのみ建裁

浦をうそ庭よいつと此本乃まうか

くびまうに少のあ程と家河みう

と流山とううふ家をれいつ見うれ

あよふうそ岑よい津を乃ひくき裁

くそよあふ中垣もあれいば思う那

うく人のあ流とあらふ河

同

肖拍

同

宗碩

同

同

宗牧

同

周桂

同

宗養

同

宗巴

同

同

同

同

同

同

若葉乃道とひる北の川見切那
みら野人乃うてとあち世記泉うあ
夕風入りあうたまふ川をいつと哉
くともあましいは之よりそく家ち水
泉く入りあま泉河る北泉うれ
参きけをまろふ時之れいはとり那
くむ人のあく流またえぬいつみ哉
天津そり北月さ人住よいはるとうか
松く樹のあま北中なる川みうれ
ゆきよひとく人らまかりあまそ
清水
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
昌叱 同 同 同 同 同 同 同 同

あつあつ思水くそ秋とうく人うれ
志りーとそむをひくく世界清水哉
水きよみとら秋少ゆ北やと里う那
あつあつふ山乃井あく思神の那
手成ゆ人くみ色いふが産ぬ清水哉
系なうてむをふや清水やあまきうけ
柳うけらうて秋之川志うつ切那
な川山入り秋北水せくわを孫うあ
むをひあまきとふく上若井乃清水哉
まろしうあむをひわをあく清水哉
うけむす娘山ま川流うを志う川
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

まろ風よらませせて涼いそみつ
松風よりちきりて涼いそみつ

いささか井きよふあま

うぶ花なき心とむきふふ心
宵柏

まろしさを浦やまろ玉衣
宗碩

むき人打波のやま
紹巴

奥入とむきりぬ山乃志
同

初と来電らるるまじむきふ志
同

むきひふ人やま
同

くめを池くまぬにふこ志
同

まきけをむきふまき家
同

あつとめて打波むきひ
同

あつ乃目とむきふ
同

くむ人のみらとむきふ世家
同

とあろ人ひりてむきふ清水
昌叱

むきふまやをれかちらあ
同

後

雲とく霞とらふ色
宗祇

八重雲とらふうつ
同

みそさびる心
同

思ふあともやくなる
同

思ふ事よとこゝの流やみそき川
思そき一てりふそふ乃わさつうと
そそき川あきや立えれあきすく見
こ空れもまあの痛と越よみそき川
たのこそふ持ふぬ志てく終乃うみ
浪そあや漱織つひあれ思そき河
あくくあきれゆふ花芽重みそふ酒
り人も思へあつ越乃ゆふとへ
年なまこれ世や宮中みそき川
月うきそあき乃水ゆくそそき川
あとのをれみそき世この流り耶

同
同
同
宗碩
宗物
同
同
周桂
同

うたやあふる瀬入勢みそき河

同

り。立れ草木をくれそそき川
檜麻乃ゆまてあつの流みそき川
あきや瀬の川や漱よなるそそき川
りふや先友れ目あつ流みそき川
けふよあふ海瀬あそ家あ思そき川
いふれよき寺やあつ流乃みそき河
年ふたえ思流接のーてりあきや川
くさたやあふるそそ流れ思そき河
流くあきや津のく流と流接川
流一あ流まうるりそそき川
流一あ山路乃をふれりりへ

宗養
同
同
同
同
同
同
同
同
同
昌叱

沼巴一回忌遊善寺白茅十步後
年月や抄一ひり糸のゆふりくハ
みしりハ秋乃りひやみそき川
同

雜夏

秋と萩の葉よりまきせぬ夕ぐれ
まきてふ散や秋の葉やあきさけ
まき雲子照そふな川乃日けり糸
まきなり木ハ志け山乃下はくし
家旅

夏の拈り

夏くけく夏さくまわり乃わく葉の那
いせりハ秋の葉の拈りハ秋の葉
あつ山をいりりもまわりと来間ハ
水きよくう葉や屋をくあつ山
同

周防より下し時前秋のたき

ろきとらり

いけを満水可急ハな川のみや海津
夏乃うと川山をみとる比子入ハ
あつハ池を末す糸ハ鴨乃舌羽ハ
うけ見まハ柳ハみ志け糸清ハ切那
春里ゆく水草ハ池乃そくハ
松乃さハ藍より毛打秋夜燈ハ那
同

越乃地見ゆりとき

しつみとるる根ハ雪此をの野ノ那
夏や月とうらまぬたきやそこの雪 同

白山ちのき所まで

富士乃とく又月と申され白根うか 同

夏とけさありのにやこふ里とけの海 同

とりのふりやきりのまよ乃夏此法 同

月と月とまよあつかひのあめあめ 同

うけ見せよ月日環うらまふ法のあ 同

や海うのふ海やふ月のあきまて見 同

備中一園まで

まの孫少く山うてう月此をの法 同

志乃ひあま里風や秋の山蕨乃と冬 同

まさてみよ花をう夏こそ秋のりら 同

吹き来ぬ風乃あき一一家一葉う那 同

夏と秋とひる雲月くま月うけられ 同

冬と秋とけさえ打ちうらまき哉 同

名とまよ思自ひもはかろふ月山 肖拍

み月のあけ山家まで

けう秋のやま里と秋見よさうつふ山 同

夏乃白北中へ

花とりんそ行りふむりう乃垣孫式 同

祇園會乃日法樂蓮舟へ

竹の葉乃白ゆふまじし秋またり
夏ひまれのいとをちのる乃一日か
同

あまの良真房菘宿まじく六月の比
あまの良真房菘宿まじく六月の比
同

富士乃山と見ゆみ
きえて少る一日やあつのみ一此書
同

水江の菘やりまじく
三崎江やの菘も秋まらり一八ヶ那
同

ふくく入まをのまじくくは山路菘
こぬそくは秋のけてろろ夕日切那
同

夜りりれ水やこれさくあ一か切那
秋まゆくこけ地のをのれか山ヶ那
同

白川「あそ
那出「秋」菘あつまじく記ちあふ
同

あまの良真房菘宿まじく六月の比
あまの良真房菘宿まじく六月の比
同

あまの良真房菘宿まじく六月の比
あまの良真房菘宿まじく六月の比
同

あまの良真房菘宿まじく六月の比
あまの良真房菘宿まじく六月の比
同

あまの良真房菘宿まじく六月の比
あまの良真房菘宿まじく六月の比
同

そく此色やいとくおす月の雲如露 周桂

松やうけ志々り相せむとさりくれ 同

か例空うけてとまがへあまつう霞 同

うせや花切かりきふたり雲はるの 同

夜ありをううう霞う海さ朝戸うか 同

あきとわらうらむとやとあや岑乃雲 同

雨や目教と糸さたえなる又月如那 同

雨くともやえまのみかかえ又月やま 同

なま乃あやとらやわさ津とあつ衣 同

な川の法そふよや千世り八手様 同

ゆやまふとらやわさよの瀬うを 同

推乃象れりりりりりりりりりりりり 同

そくのよとまの月吉れめく之哉 同

遊やけさあいのそくり出まふ家のぬ 同

遊れぬれあつと外りりたの柳くれ 同

風をふけまふ海なと乃あはのうと 同

こ想あきとそあふりく志不え海嶽 同

芦をけ望うき草しよりふ折切那 同

な川乃よやめくともうあく岩戸山 同

秋ちあに風をさうするれわたり式 昌休

まよまはにわのやみこむり柳うけ 同

永原守白夏の雨

木の洞やをと山を所見あつ乃每
くすれ葉乃玉まれめくぬみさるる式
夜乃のろを露みしを海くひうれ哉
病のふちとて法樂乃一抄よ
夜の色や身うてとくむる水のう急
水上や雲井乃りまきるさあふや海
同 同 同 同 同 同

天神君号法樂り

あまろりみらやまれまの五月山
うれりろやおり人の手入夜あろを
深山本を常に忘りて暮りなり
深川山を忘りて夜此なるあつ切都
あつり岩苑ゆもあつり
夜乃月れりけり
岩れく冬水草かうり
あつあつい仙人のうききく此たの
ひさうこ此山りやふりくまの峯
あきまうてなうき草や苑此を
こ思秋やたあえの梅乃ろろをみら
秋らりしをうく残すくさまの葉
折し生少あまれ名志けあむりし哉
夕月もやあつりの葉拍の月をなり
たえまゆ水上あつりし又月やま
そつにちりのさ秋やあつりさ乃し急
とまうしぬ野の春目の麻子りれ

あまろりみらやまれまの五月山 同
うれりろやおり人の手入夜あろを 同
深山本を常に忘りて暮りなり 同
深川山を忘りて夜此なるあつ切都 同
あつり岩苑ゆもあつり 同
夜乃月れりけり 同
岩れく冬水草かうり 同
あつあつい仙人のうききく此たの 同
ひさうこ此山りやふりくまの峯 同
あきまうてなうき草や苑此を 同
こ思秋やたあえの梅乃ろろをみら 同
秋らりしをうく残すくさまの葉 同
折し生少あまれ名志けあむりし哉 同
夕月もやあつりの葉拍の月をなり 同
たえまゆ水上あつりし又月やま 同
そつにちりのさ秋やあつりさ乃し急 同
とまうしぬ野の春目の麻子りれ 同

あまろりみらやまれまの五月山 同
うれりろやおり人の手入夜あろを 同
深山本を常に忘りて暮りなり 同
深川山を忘りて夜此なるあつ切都 同
あつり岩苑ゆもあつり 同
夜乃月れりけり 同
岩れく冬水草かうり 同
あつあつい仙人のうききく此たの 同
ひさうこ此山りやふりくまの峯 同
あきまうてなうき草や苑此を 同
こ思秋やたあえの梅乃ろろをみら 同
秋らりしをうく残すくさまの葉 同
折し生少あまれ名志けあむりし哉 同
夕月もやあつりの葉拍の月をなり 同
たえまゆ水上あつりし又月やま 同
そつにちりのさ秋やあつりさ乃し急 同
とまうしぬ野の春目の麻子りれ 同

水の上はおもひけりちか秋乃く櫻
一葉ち程少くはにふ月のあはさる見 同

石天王寺

加そふへ葉初とや夏乃よくはれ秋
あけき月をさくくせらん雲乃まの 同
秋らうく水打乃きささゆきささゆき 同

おんた

水世月や仲中何とて成于くさ 同
海らゆく水さふふくあつ乃りろ 同
玉さきの木を急た夜ハや月の影 同
都の山と山と山とくわ月のあ 同

葉とあも思ないうこくぬ柳くさ 同
つかと出ぬこれと玉江乃水草く哉 同
秋らあきく急して風ハのらもな 同
あつやふハまのこすあれ入江くれ 同
く人登つて水な流るかやなはの達 同
あつ山と山とくわてく人秋夜結く那 同
かくまぬは何とてさるくまぬ夜整く 同
をの流く塵あはれくけ乃三け里哉 同
あつ山乃を流ひくく三のりな 同
常盤木とくくあ河やすき為葉く 同
秋の色と流く乃葉とああわらふ 同
昌比

徳とたゞこけの志々やあひ小葉
あつの日ハびへ山風乃草下木切那
秋まゝぬ露やうりしと此志乃ふまり
あとなは花咲びあはす月をな

詠巴道善玄仲真り

うへてまゝんあ此世や思ひぬれさ
又月屋を木此下あゝ思やせな

詠巴道善

又月屋を木此下あゝ思やせな

詠善院道善

予州乃夜ハゆ免まか海の程

花さけり水けり草の葉は

初ま川川をや秋の夕わさ

さる乃葉をひましくちり

詠箕面

あつ山を定りひききそ瀧の形

病葉乃木けりし志りの夢をうか

志葉をぬそぬ建思こりしや夏乃山

山乃を色そく色くふりやな川の浦

花より波あゝりさる川玉彦く那

詠駿列

夏乃月をうとやめらる富士此雪

詠同部三条西殿

あさくくぬ道ハ乃こまきる夜野ノ風
夜の目此をわみ本くく此風も哉
あさ浪乃もか此わく葉くあつこの海
いそ縁水も木たうくまか此此遊
あけ里合て江乃水乃そあ何し海式
又そみだある様もあけあ森乃此也
同 同 同 同 同 同 同

海天王寺

雲乃こりこすも乃あつもいと海山 同
拙を別

夏ととんといふさかそ江や秋の夢 同
くさありのあとい草す内苑の在り 同

白雲別

あつり満やあ海も此ああもこれ霧
あつりの月やあへま子草す此浦乃松 同
こは巻く海や海らりくあき入りのあ 同
あつを雨もれてもやあ海木陰り此 同
い流をあといくさ草すあけあ早津川 同
六月やあといくさ草す乃ゆあわこま 同
くあつりあ海らりくや浪のこれあつり 同
あつ乃葉や葉もまこぬ秋のあつ 同
常盤木此海葉りくあさあ海山式 同
りあつあつあつあつあつあつあつ 同
中くくああハみらあもああああ 同
あつ水もあつりくああああああ 同

うと山をなすて五さわふはめそ
水上北さやまよふ一おつ北りろ
夏山乃々一同時雨あけりろも切那
あつ山やき年一のうを北面りりわ
なつ山のふ川くりんて言ひ野
せり水お外やふりけやあきうけ
水世月のあうさあうりけあの建裁
冬北よ城ありふりかろしふつま
夏よおきううと世あもりん之山うか
ね建さやそと水あけそな乃や海
なつ山をと城きもちのきあの種水
山一越くふとあ言らけ北東東のれ

蓬せやあひふとせとれ志げりつれ
同

お大垣

あつき月をりつて伊吹乃うと茶
同

お伊勢方田丸稲藁茂人殿

夏もえやいふをれそよくりつれ
同

翁句帳夏秋終



Handwritten text in the bottom left corner of the left page, including the characters "女" (female) and "子" (child), and some illegible characters.

Small handwritten marks or characters at the top of the right page.

A small handwritten character, possibly "シ" (shi), located on the right page.

110X
121
3